

皮
と
篝火
。

弁財
行

【あらすじ】

一人の少女が生きたまま皮を剥がされ死んでいく様を撮影した所謂「スナッフフィルム」。それが世に一回ると同時に、とある宗教団体に関連した者達が次々と猟奇的な死を遂げていく。現場に残された「16年前 皮 かえせ」というメッセージ。父が遺した懺悔に長年苦しめられてきた元親は、次々と起こる異常な事件にゆっくりと巻き込まれていく。

【登場人物表】

鳥居元親 (33、20、10)
居酒屋店長。

西田灯太 (30) 居酒屋店員。偽名。
井ノ浦啓二 (30、16、14、7)
西田灯太の本名。

井ノ浦蛍一 (33、19、17、10)
啓二の兄。連続殺人犯。

高柳唯 (14) 啓二の恋人。
松井哲也 (33、10) 居酒屋店員。

警察

福井光己 (35) 捜査一課刑事。
一ノ瀬広斗 (33、17) 公安警察。
一ノ瀬隼人 (40) 公安警察。広斗の父。
久木辰巳 (32、16) 公安警察。
久木慎一郎 (45) 公安警察。辰巳の父。

宗教法人天禅会

笹川真善 (78、62、58、10)
天禅会教祖。綱吉の祖父。
倉橋綱吉 (35、19、15)
県知事候補。幸吉の息子。
山下大輔 (56、40) 天禅会秘書。
松井和也 (54、38)
天禅会信者。哲也の父。
鳥居元忠 (41、40、38、31)
天禅会信者。元親の父。
松浦雄三 (54、38) 天禅会信者。
遠藤仁 (54、38) 天禅会信者。
宮本俊介 (54、38)
天禅会信者。真奈の父。

公正平和の党

倉橋幸吉 (57) 衆議院議員。綱吉の父。

倉橋聖良（57）網吉の母。真善の娘。

井ノ浦さやか（39）蛍一と啓二の母。

柘山巧（79）地元名士。

柘山ふさ子（79）巧の妻。

浅野太一（24）聖良の愛人。

宮本真奈（19）宮本俊介の娘。

近藤忍（38、21）

願浄寺住職。元コンビニ店員。

ニュースキャスター

ユチュバ

ユチュバ

コメント

女子高校生

女子高校生

女子小学生

女子小学生

女子小学生

刑事

鑑識

警官

警官

信者

信者

交通誘導員

不法投棄業者

警備員

秘書

秘書

寺男

客

客

客

主婦

○（回想）14年前・病院・元忠の病室（昼）

鳥居元忠（41）、奇声を上げ暴れる。

息子・鳥居元親（20）、父を抑える。

元忠「俺は人殺しだ！」

元忠「俺は人殺しだ！」

元忠「火をつけた。灯油をかけて！」

元親「お、おい。親父」

元忠「殺したんだ！」

元親「何言ってるんだ。やめろよ！」

元親「元親、元忠の両肩を掴む。」

元忠「子供達が泣いてた……」

元親「元忠、虚ろに元親を見つめたまま。」

元親「……看護師さん、呼んでくるから」

元親「目を逸らし病室を出る。」

背後からガラスが割れる音。

元親「引き返す。」

窓ガラスが割れ元忠がいない。

外を覗き込むと地面に元忠の死体。

元親「親父！」

ベットの足元に新聞が落ちている。

「東尋坊で兄弟自殺か」の記事。

○現在・元親のアパート・寝室（夕方）

元親（33）、汗だくで目を覚ます。

元親「……はい」

元親「……はい」

松井哲也（33）の声「いつまで寝てんだ。」

店どうすんだよ」

元親「（掠れた声）……悪い、今行く」

足元のテレビでニュースが流れている。

○ニュース

倉橋綱吉（35）が街灯で手を振っている。

ニュースキャスターの声「県知事の任期満了に伴い来月投票が行われる県知事選。今日、衆議院議員倉橋幸吉氏の長男、倉橋綱吉氏が出馬の意向を表明しました」

○バス停（夕方）

女子高生2人、スマホを見ている。
ニュースキャスターの声「次のニュースです。
殺人の様子が収められた、いわゆるSNS
プラットフォームが海外の動画サイトから配信さ
れ話題を集めています」
女子高生1「これこれ、今騒いでるやつ。隣
のクラスの子も見たって」
女子高生2「ちよつとマジでキモいんだけど。
生きたまま皮剥がされてるってほんど？」
ニュースキャスターの声「配信サイトは現在
動画の削除を試みています」
女子高生1「犯人も映ってるらしいよ。被り
物してて誰かわかんないらしいけど」
バスが到着。女子高生達が乗り込む。
井ノ浦 蛭一（33）、バスから下車。
背後でドアが閉まり、発車する。
蛭一、スマホを見る。
「スナッフフィルム」の犯人と同じ痣が
手にある奴」というSNSが映る。
蛭一、フードを目深に下げて歩き出す。

○ 碎石場・入口手前（夕方）
蛭一、砂利道を歩く。目の前に碎石場。

○ 同・工場内（夕方）
機械音が響く。
松井和也（54）、2階の渡り廊下を
歩く。足音がして振り向く。
蛭一、ナイフを持ち立つ。
和也、驚いて逃げる。
蛭一、背後から和也を切りつける。襟
足を掴んで手摺の向こうに落とす。
和也、咄嗟に手摺を掴みぶら下がる。
和也の手の痣が露わになる。
蛭一、和也の顔を覗き込む。
和也「や、やめ——」
蛭一、にっこりと微笑み和也の腕を掴
む。肘を切断する。
切断された腕は手摺を掴んだまま。
和也、もう片方の手で渡り廊下の床を

掴む。
蛭一、廊下を掴む和也の指を叩き切る。
和也、絶叫し下にある粉碎機に落ちる。
蛭一、ポケットから紙切れを一枚取り
出して床に置く。そして立ち去る。

○同・工場内（朝）

刑事達、事件現場を調べている。
鑑識、写真を撮っている。

刑事1「被害者は松井和也54歳。14年前
に妻を残して行方不明になっていたよう
で、失踪届が出ています」

福井光己（35）「……怨恨の線か、サイコ
パスか」

福井、鑑識が撮影している紙に視線を
向ける。
「16年前 皮 かえせ」と印字され
ている。

○居酒屋・店内（夕方）

ニューズキャスターの声「現場には「皮かえ
せ」という異常なメッセージが残されてい

たようですが……」
コメントターの声「皮、というところ最近世間
を賑わせているスナッフフィルムが連想さ

れますね。あれも配信者が不明で……」
元親、腕を組み椅子に座る。テーブル
に広げた履歴書を睨みつける。

西田灯太（30）（に扮した井ノ浦啓
二。以下「西田」と表記）、元親の向

かいに座る。
哲也、カウンターでグラスを拭きなが
ら2人を見つめる。

西田「（緊張しながら）あの……」
元親「（立ち上がり大声で）採用！」

西田「あざっす！」
元親、立ち上がり両手を広げる。

西田「立ち上がり元親に頭を下げる。
哲也「いや早え！」

哲也、布巾をカウンターに叩きつける。
元親「（キョトンとして）え、なんで」
哲也「なんで座ってすぐ採用なんだよ、志望の
動機とか聞けよ！」
元親「（胸を張って）心で聞いた。心で」
哲也「やかましいわ！おい、灯太って言っ
たか。お前、動機は？」
西田「あ、姿勢を正す。」
西田「あ、はい！彼女と一緒にやる為にお
金を貯めたいんです。俺中卒なんで、今ま
で碌な仕事に就いたことないんですけど、
ちやんと働いてお金を貯めたくて……」
元親「採用……（鼻を嚼る）」
哲也「（呆れながら）どんだけ涙脆いんだよ」
信者1「中を窺うように入店。」
哲也「ああ、ごめん。まだ開店前だよ」
元親「西田、信者1を見る。」
信者1「すいません。お客様じゃないんです。
私天禅会の者でして、これをレジの所に置
かせて貰いたくて」
信者1「鞆から名刺の束を取り出す。
名刺に「迷いは救われる」「女神様は
常に傍に」と印字されている。」
元親「（困ったように）ごめんな、悪いけど
うちはそういうのやってないから」
信者1「でも、置くだけでも……」
哲也「（鼻で嗤いながら）それ、『ご案内』
ってやつだろ？周りの奴を救いの道に『ご
案内』したらご利益あるって無駄なやつ」
元親「（咎めるように）哲也」
哲也「（不快な顔で）関わりたくねえ。灯太」
元親「ごめんな。でもうちはやらねえから」
元親「信者1を店の外に追い出す。引
き戸を閉めて溜息を吐く。」
西田「なんですか今の」
西田「カウンター越しに元親に聞く。」

哲也「何、お前知らねえの」

元親「天祥会って言うってこらじゃ有名な宗教団体だよ。ほら今度県知事選に出る倉橋つてのもその出だよ」

西田「お2人は興味ないんですねそういうの」
元親「俺は……」

○（回想）14年前・病院・元忠の病室（昼）

元忠、奇声を上げ暴れる。

元親、父を抑える。

元忠「俺は人殺しだ！」

元忠、元親に向かって泣き叫ぶ。

○現在・居酒屋・店内（夕方）

元親、不自然に顔を背ける。

元親「……お互い親がやってたけどよ、もう

俺達はそういうの関わりたくねえんだよ」

哲也「そういうこと。ほら準備すんぞ」

3人、開店の準備を始める。

○天祥会本部・10階・綱吉の執務室（昼）

信者達、盗まれたスナッフフィルムの

手掛かりを探している。

倉橋幸吉（57）、息子綱吉を叱責中。

幸吉「あれほど捨てると言っていた物をいつ

までも持って、あまつさえ盗まれるとは！」

綱吉「でも、下手に捨てて見つかったとしても――」

幸吉「黙れ！ 捨てなくても誰かに盗まれて

この様だろう！」

綱吉、俯く。

幸吉「配信者の正体はまだわからないのか！」

幸吉、信者達に叫ぶ。

山下大輔（56）、入室。綱吉に近付

く。

山下「警察の方がお見えです」

○同・1階・エントランス（昼）

福井、信者に案内されエレベーターに

乗る。

信者、首に下げているIDカードをパ

ネルに翳し9階のボタンを押す。

○同・9階・エレベーターホール（昼）

福井、エレベーターから降りる。

幸吉、綱吉、福井を出迎える。

幸吉「どういったご用件ですか」

福井「実は先日で起こった殺人事件で被害者

の身元がわかりまして」

福井「以前こちらの信者だった松井和也さん

であることが判明しました」

幸吉「……それは残念なことです」

福井「綱吉、幸吉の背後で目を瞞る。

福井「殺害現場に16年前皮かえせ」

と書かれた紙が置かれていました。何かご

存じではないかと思いましたが」

綱吉、息を呑む。

福井、綱吉の様子に気付く。

幸吉「（微笑みながら）元、信者ですよね。

私共には関係ありません。息子も出馬を控

えています、身に覚えの無い事を言われま

しても……」

福井「……ああ、失礼しました」

幸吉「お力になれず申し訳ございませんが、

スケジュールが立て込んでおりますので、

今日の所はこれで」

幸吉、山下に目配せをする。

山下「お帰りはこちらです」

山下、福井をエレベーターへ促す。

福井、礼を言っ立去る。

○居酒屋・店内（夜）

哲也、厨房の勝手口で電話をしている。

西田、食器を運びながら元親に尋ねる。

西田「どうかしたんですか」

元親「お袋さんから。親父さん死んだって」

西田「え！」

哲也、電話を切り振り返る。

哲也「親父の実家行ってくる」

元親「お袋さんもこっちくるって？」

哲也「ああ。一応な」

西田「：：：勝手に勝手口から出ていく。

元親「あ、あ、よく一緒に遊んでたよ」

西田「元親さんのお父さんは？ 元氣ですか」

元親「：：：ああ。：：：死んだ」

西田「（慌てて）すいません」
元親「いやいいんだ。ほらこれ2番テーブル」
西田「皿を受け取り客の元へ行く。」
元親「包丁を持つ自分の指を見つめる。」

○（回想）14年前・病院・元忠の病室（昼）

元忠「火をつけた。灯油をかけて！」

元親「お、おい。親父」

元忠「殺したんだ！」

○現在・居酒屋・店内（夜）

元親「まな板の上でぎゅっと拳を握る。」

○松浦自動車修理工場・外（昼）

松浦「ラジオが大音量で響いている。」

松浦「松浦雄三（54）、車の下で修理をし
ている。」

蛭一の声「すいません」

松浦「返事をして車の下から這い出る。
蛭一、松浦の頭をレンチで殴る。」

× × ×
松浦「目を覚ます。親指が結束バンド

で後ろ手に固定されている。」
蛭一「松浦の目の前に屈み笑う。」

松浦「仕返しに、きたよ」

松浦「（震えながら）誰だお前」

蛭一「灯油用のポリタンクを横に置く
と、松浦の口にポンプの先を入れる。」

松浦「呻く。」

蛭一「懐かしいよね、このタイプ。今って電
池入れて電動で動くじゃん」

蛭一「ポンプを押す。」

松浦の口へ灯油が注がれる。
松浦、口から灯油を溢れさせて死ぬ。
蛭一、にんまりと笑って立ち上がる。
懐からジッポを出し、松浦の服に火を
点ける。松浦の遺体が燃え上がる。
蛭一「もう少しだよ、待ってな」
懐から一枚の紙を取り出し、ジッポと
共に地面に置く。
紙には「16年前 皮 かえせ」と印
字されている。

○商店街・アーケード（昼）

消防車・救急車が通過していく。
元親、西田、買い物袋を持って歩く。

ガチャガチャで遊ぶ子供達がいる。

女子小学生1「私ルビー！」

女子小学生1「女子小学生達がカプセルから玩具の指
輪を取り出し見せあっている。」

女子小学生2「わたしエメラルド！」

女子小学生3「これってダイヤ？」

西田「それを見て微笑む。」

元親「（揶揄って）やってくか？」

西田「（恥ずかしそうに）やりませんよ！」

元親「すつげえ羨ましそうに見てたからよ」

西田「顔を背ける。」

西田「兄ちゃんが好きで、よくやってたんで
すよ。あの人がいつつもいいやつ当てるし」
元親、微笑む。

元親「お前は外れ引きそうだなあ」

西田「そんなすよ！俺だけいつつも変な
ので！でもそれで泣くと兄ちゃんが交換
してくれんです」

元親「弟の特権ってやつか。ずるいなお前」

西田「昔から甘いんですよね俺に」

元親「一緒に暮らしてるのか？」
西田「いいえ、今は仕事が忙しいらしくて。
早く彼女にも会ってほしいんですけどね」

元親「何かあったの？」
元親「何かあったの？」

元親「何かあったの？」

西田「最近物騒ですよ。あ、そういうば通夜の
お手伝いつて何時からでしたっけ」
元親「15時位からでいいだろ」

○公安の車・中（昼）

久木辰巳（32）、運転席で電話中。

通話を終えると助手席に座る一ノ瀬広斗（33）へ報告する。

辰巳「2人目、出ました」

広斗「コンスタントにやられてるな」

辰巳「手際がいいですね」

広斗「天禅会の様子は」

辰巳「躍りになって配信者を探していますよ。父親の倉橋幸吉の方は所属している公正平和の党から署内に圧力をかけているようです」

福井、後部座席に乗り込む。

辰巳、驚いて振り向く。

広斗「（ミラ―越しに）何しに来た」

福井「お仕事だよ。お前達と同じだね」

広斗「捜査課と公安を一緒にすんなよ」

福井「公正平和の党と天禅会の裏金調べてる

んでしょ？ 今回の殺人事件と関係ありそ

うだと思わない？」

福井、シートに凭れて目を瞑る。

福井「あぶり出しみたいなものだと思っ

たよ。スナッフフィルムが世に拡散された

おかげで、犯人の一人と思われる松井和也

の居場所が割れた」

辰巳「スナッフフィルムの被害者の方は分か
ったんですか？」

○スナッフフィルム・天禅会本部・地下室

室内は蝋燭の灯のみ。

高柳唯（14）、複数の男達に抑えら

れ、皮を剥がれている。悲鳴を上げて

いる。

男の一人は手に痣がある。

○公安の車・中（昼）

福井、目を閉じたまま説明する。

福井「被害者は高柳唯。16年前行方不明になつた天禅会信者。あの「16年前皮かえせ」つてのは復讐予告じゃないかな」
広斗「（面倒くさそうに）こっちは裏金さえ見つけられればいい。後は他の仕事だ」
福井「（苦笑いをして）つれないねえ」
福井、車から降りる。

○松井和也自宅・玄関前・外（夜）

元親、西田、通夜会場の受付を手伝う。
哲也、2人に歩み寄る。

敷地前の道路から怒声があがる。

遠藤仁（54）「これは復讐だ！」

宮本俊介（54）「おい、やめろって！」

遠藤、叫びながら宮本の肩を掴む。

遠藤「お前だつてそう思うだろ！松井が殺

された、松浦もだ！これは復讐だ！も

しかしたら元忠だつて……」

宮本「遠藤！もうやめろ！」

元親、遠藤と宮本に近づく。

元親「なあ、今親父の名前……」

遠藤、宮本、我に返る。

宮本「ああ、何でもない、すまねえ」

元親「（窺うように）よかつたら中に……」

宮本「いやいや、大丈夫だ、悪いな」

宮本、遠藤を支えてその場を後にする。

二人を見送る元親。

哲也、元親の背を見つめる。

○居酒屋・店内（夕方）

客はいない。

元親、厨房で仕込み中。

西田、テーブルを拭いている。

哲也、喪服で入ってくる。

元親「（ぎよつとして）おい、葬式は？」

哲也、背広を脱ぎネクタイを緩める。

元親「（呆れて）そのまま出勤すんなよお前」

哲也、元親に詰め寄る。

哲也「聞きてえことがある」

元親「何だ」

哲也「昨日、復讐だとか叫んでた奴いたよな」

元親「息を呑む。」

哲也「あれ、何のことだ？ お前何か知ってんのか」

元親「黙り込む。」

哲也「親父は失踪して、お前の親父さんも自殺して、そんで今度は親父が殺された。な

んかあんのか」

元親「……わからねえ」

哲也「嘘つくなよ、あいつら皆親父達と仲良

かった奴らだろ。俺も人の事言えねえけど、

お前、親父さんが死んだからあからさまに

ああいう奴ら避けるようになったじゃねえ

か。なんか知ってんじゃねえのか」

元親「（思わず怒鳴る）知らねえって！」

哲也「驚く。」

西田「おろおろする。」

元親「自分の声に驚き、バツが悪そう

に溜息を吐く。」

元親「俺だってわかんねえんだよ……だけど」

○（回想）14年前・病院・元忠の病室（昼）

元忠「奇声を上げ暴れる。」

元親「父を抑える。」

元忠「俺は人殺しだ！」

元親「元親に向かって泣き叫ぶ。」

○現在・居酒屋・店内（夕方）

元親「項垂れたまま。」

元親「でも、人を殺したって、親父は言っ

た事がある。……自殺する前に」

哲也「親父達が、か？」

元親「元親、力なく首を振る。」

元親「そこまでは……」

店「店の扉が勢い良く開く。」

福井「福井、入ってくる。」

福井「いよお！ 飲みに来たぞ元親」

元親「（驚いて）え、先輩？」

哲也「福井を睨みつける。」

元親「（驚いて）え、先輩？」

哲也「福井を睨みつける。」

元親「（驚いて）え、先輩？」

哲也「福井を睨みつける。」

元親「（驚いて）え、先輩？」

哲也「福井を睨みつける。」

元親「（驚いて）え、先輩？」

哲也「福井を睨みつける。」

哲也「今取り込み中だ、見りゃわかんだろ」
福井「まあそう言わずにさ、俺も割と切羽詰
まってるんだよね。あ、生一つ」
西田「（困惑しながら）あ、はい」
西田「西田、ビールを取りに厨房に向かう。」
哲也「おい、誰だよこいつ」
元親「大学の先輩。（福井に向けて）今、捜
査課でしたっけ」
元親「厨房を出て福井の向かいに座る。」
福井「そ、残業続きで嫌になっちゃまう」
西田「お待たせしました」
福井「西田、ビールを福井の前に置く。」
福井「おお、ありがと」
福井「懐から一枚の写真を取り出して
テーブルに置く。」
福井「元親、単刀直入に聞くけど、このジッ
ポ見覚えは？」
元親「写真を手取る。」
元親「元忠」と刻印されたジッポの写真。
福井「これ、親父が昔使ってたやつ……」
福井「福井、天を仰ぐ。」
元親「これ、どこから——」
福井「殺人現場」
元親「元親、哲也、西田、驚く。」
福井「ニューズ見たか？ 殺人事件」
哲也「……親父の？」
福井「……だけじゃないよ。松浦雄三って男も昨
日死んでる。遺体の傍にあつたのがこれ」
福井「哲也、西田、空いている椅子に座る。」
福井「今回の殺人事件、天禅会が絡んでるっ
て俺は思ってる。死んだ松井・松浦は元信
者でお前の父親とも仲が良かった。何か知
っていることがあれば教えてもらいたいと
思ってるさ」
元親「（困惑して）……なんで、天禅会が絡
んでるって思うんですか」
福井「懐から4枚の写真を出す。」

福井「16年前にこの地域で死亡・行方不明
 事件が多発した時期があった」
 福井「福井、唯の写真を見せる。」
 福井「一人目が高柳唯。当時14歳。天禅会
 信者で16年前に行方不明になった」
 哲也「16年前ってことは、生きてたら30
 か……」
 西田「哲也さん、元親さん、地元ですよね。
 会った事とかは？」
 哲也「元親、首を振る。」
 福井「次は浦さやか(39)の写真を見せる。
 浦さやか(39)の写真を見せる。直前ま
 で天禅会に入りにしていた」
 元親「撲殺……犯人は？」
 福井「こつち。井ノ浦さやか」
 福井「福井、さやかの写真を指さす。
 福井「こつちも天禅会信者で一ノ瀬と不倫関
 係にあった。殺害理由は痴情のもつれだろ
 うってことになってる」
 哲也「なってるってなんだよ」
 福井「福井、肩を竦める。」
 福井「死んでるんだから本当の理由なんて聞
 き様がなないんだよ。あくまで仮説」
 元親「こつちも、死んでるんすか」
 福井「そ。別れ話をされたことに逆上して一
 ノ瀬を撲殺。その後自宅で焼身自殺」
 哲也「なんか普通に子供の家出と痴情の纏れ
 みてえに聞こえるけど……天禅会関係なく
 ねえか」
 福井「ここまでならね。でも一ノ瀬は公安の
 刑事だった」
 元親「元親、哲也、西田、驚く。」
 西田「公安……」
 福井「天禅会に独自に潜入して何かを調査し
 ていた。おそろく裏金とかそのあたりだと
 思うけど。昔からきな臭いからね、あそこ」
 福井「次は久木慎一郎(45)の写真
 を見せる。」

福井「一ノ瀬死亡後、一ノ瀬と一緒に捜査をしていた久木慎一郎という部下も左遷。半年後には酔っ払いに刺されて殉職」
 元親「それってー」
 福井「正確に言うとな信者の酔っ払いね。だから何かを握っていて殺された可能性が高い。：：そして、一ノ瀬の事件の後すぐに松井和也は妻と子を連れて失踪」
 西田「え、哲也さん、失踪してたんですか」
 哲也「西田を叩く。
 哲也「人聞きの悪いこと言うな。あいつがいきなり引越すぞって言い出したんだよ。荷物も碌に持たねえで、そこで：：」
 哲也「言い淀む。
 福井、哲也を一瞥し、溜息。
 福井「それで、子供が高校卒業したタイミンで今度は単独の失踪」
 西田、哲也を見つめる。
 哲也、俯いたまま。
 福井、元親を指さす。
 福井「更にその翌年。：：お前の親父さんも自殺」
 元親、俯く。
 福井「わかっていることは3つ。最近話題になっっているスナツフィルム。配信者も出所も不明だけどあれが16年前失踪した高柳唯であるということ」
 元親、哲也、西田、驚く。
 福井、哲也を指さす。
 福井「2つ目は映像の中で彼女を抑えている男の1人が松井和也であるということ」
 (フラッシュバック)
 唯、複数の男達に抑えられ、皮を剥がれている。悲鳴を上げている。
 男の一人は手に痣がある。
 哲也、激昂し立ち上がる。
 哲也「ふざけんなよ！親父がそんなこと！」

西田、哲也を抑える。

福井「（動じず）手の痣」

哲也「は？」

福井「犯人の1人は手に痣がある。画像と遺体を照合をして、同一人物であることが判明した」

哲也、愕然とする。

福井「3つ目に松浦。現場に松井和也と同じメッセーシジが残されていたことから彼も高柳唯の殺害に関与した可能性が高い」

元親「メッセーシジって？」

福井「16年前、皮、かえせ」

元親、哲也、西田、息を呑む。

福井、メッセーシジが印字された紙の写真を懐から出す。顔の横で翳す。

福井「松井の死体の横にも、松浦の死体の横にも同じものが置かれていた」

元親「親父の……ジッポも」

福井「そ」

福井「福井、ネクタイを緩め、溜息を吐く。の復讐だろう。でも彼女は私生児。母親も既に他界しているから縁者の可能性は低い。そこで行き詰っちゃってね。被害者の交友関係を洗ってたらお前の父親がでてきてさ」

元親「元親、強く両手を握る。」

元親「……俺が火をつけたって。灯油をかけて、殺した。……子供達が泣いてたって」

哲也「子供達って？」

元親「哲也、訝し気に元親を見る。……わからねえ、どこの子供のことを言ってたのか。親父の妄想だったのか、それとも……」

福井「福井、深い溜息を吐く。……当時17歳と14歳の息子がいた」

元親「元親、愕然とする。」

福井「いや、その火事では死んでない」

福井「：：でも、母親の死亡後に東尋坊で兄弟の遺留品が見つかった。14年前。つまり事件から約2年後だ。以降の消息は不明。自殺と断定されている」
元親「親父が、死んだ年だ：：」
福井「生活に行き詰ってたんだらうって話だよ。母親の死亡後は頼れる親戚もいなかったみたいだしね」

○（回想）14年前・病院・元忠の病室（昼）
元忠「元親、元忠の両肩を掴む。」

元忠「子供達が泣いてた：：」
「ベットの足元に新聞が落ちていた。」
「東尋坊で兄弟自殺か」の文字。

○現在・居酒屋・店内（夕方）

元親、頭を強く抑えて項垂れる。

哲也「推測だろ、決まったわけじゃねえ」

福井「福井、苦悶の表情。」

福井「：：井ノ浦さやかが焼身自殺をした日、現場近くのガソリンスタンドで灯油を入れ

る親父さんの姿を見たって証言があった。

警察側のデータには残ってなかったけどね」

哲也「西田、絶句する。」

元親「鳴咽を堪えて蹲る。」

○ビル・屋上（夕方）

蛭一「手摺に額をつけ目を閉じている。」

○（回想）14年前・東尋坊・外（夕方）

蛭一（19）、暴れる啓二（16）を背後から抑える。

啓二「殺してくれ、殺してくれよ。もう嫌だ。

見殺しにしたんだ、俺が母さんも、唯も」

蛭一「大丈夫だ、大丈夫だから啓二」

啓二「大丈夫じゃない！もう何も大丈夫に

なんかならない」

啓二「蛭一を振り払い崖に向かって走

蛭一「よし、啓二の背に手を伸ばす。」

○現在・ビル・屋上（夕方）

蛭一、目を開ける。
ポケットからチョコを取り出す。
一口齧る。

○居酒屋・店内・客席（夜）

信者達、飲み会を開き賑わっている。
元親「随分賑わってんな。なんかあるのか」
信者2「綱吉さんの選挙が近いからなあ。皆張り切ってたんだよ！」
元親「そうかあ、なんか手伝えることがあれば言ってくれよ」
信者2「おお、ありがとうよ！」

○居酒屋・店内・厨房（夜）

西田「西田、心配そうに元親を見る。」
西田「元親さん、大丈夫ですかね」
哲也「哲也、苛立ちながら元親を見る。」
哲也「まったく、あいつ探偵かなんかになった気がよ」
西田「お父さんのこと、責任感じてるんですね。何か聞き出せばいいですけど」
哲也「元親、信者達と積極的に話をしていて。俺達に関係あるんだよ」
哲也、舌打ちをして背を向ける。
西田、哲也の背を見つめる。

○居酒屋・店内・客席（夜）

信者2「信者2、宮本に酒を注ぐ。」
信者2「そう、宮本！お前の娘、ウグイス嬢なんかどうだ、選挙の」
宮本「は、はい、あいつには無理だよ。どうも俺に似てずばらだからな」
信者2「男手一人で育てたもんなあ」
元親「そういえば最近真奈ちゃんスパーに

いないけど辞めたのか？」

宮本「接客は性に合わねえから辞めるってよ。

今はパソコン使って仕事してるみたいだ。

フルリモートって言うんだっか」

信者2「ほおお、大したもんだあ」

元親「俺には無理だなあ」

信者2「俺もだ！」

元親、笑いながら厨房に戻る。

遠藤、元親の後をそつと追う。

○居酒屋・店内・厨房入口（夜）

遠藤「おい」

遠藤、振り向いた元親の襟を掴む。

遠藤「（声を潜めて）何が知りてえんだお前」

元親「（苦しそうに）：：何のことだ」

遠藤「とぼけんな。コソコソ嗅ぎ回りやがっ

て。親父から聞いてんだろ」

元親「：：何も」

遠藤「（潜めた声で）嘘付くんじゃねえ！」

元親、遠藤の腕を掴んで襟から外す。

元親「聞いてねえよ！だから教えてほしい。

もし何か困ってることがあるなら力になり

てえんだ。この間も、復讐だなんだって言

ってただろ」

遠藤、一瞬躊躇う。

客席から大きな笑い声上がる。

遠藤、驚く。舌打ちをして元親の手を

振りほどく。立ち去る。

宮本、影からその様子を見つめている。

○天祥会本部・10階・綱吉の執務室（夜）

綱吉、幸吉と電話中。

幸吉の声「まだ配信者は特定できないのか」

綱吉「申し訳：：」

幸吉の声「やかましい！」

怒声を最後に電話が切れる。

笹川真善（78）、山下、入室。

綱吉、笹川に駆け寄る。

綱吉「（泣きそうな顔で）：：おじいちゃん」

笹川、綱吉の頭を撫でる。

笹川「大丈夫、大丈夫だよ綱吉」

綱吉「でも、お父様が……」

笹川「お父さんだってそのうちわかってくれるよ。大丈夫、女神様はお前の味方だ」

笹川「執務機の背面・壁に掛けられたカーテンを見つめる。」

山下「教祖様、綱吉様。集会のお時間です」

笹川「さあ行こう」

○同・1階・集会場（夜）

信者達、正座をしている。

笹川、綱吉、上座に立つ。彼らの背後

に女神の肖像画が飾られている。

笹川、説法を始める。

○公安の車・中（昼）

広斗、運転席で煙草を啜え、写真を見ている。

写真是和也・元忠・松浦・遠藤・宮本。福井、助手席に乗り込む。

福井「その5人、仲が良かったみたいだね」

広斗「（嫌そうに）また来たのか」

福井「同じ警察同士仲良くしようよ」

広斗「こつちはそれどころじゃねえよ」

福井「裏金の件？ もう令状取れよ」

広斗「出ねえからこうしてんだ」

福井「さいですか。ま、中に顔が利くからね、天禅会と

いい公正平和の党といい」

広斗「まあな」

福井「でもさ、こう言っちゃなんだけど親父

さんの仇、取れるかもしれないよ」

広斗「（眉間を寄せて）……痴情の縫いだ」

福井「信じてないでしょ。死体発見時、体中

の骨が粉々に砕かれていた。明らかに力あ

る者が集団でリンチして殺害したような跡。

39歳の小柄な女性一人で出来るものとは

思えない。縛られた跡もないしね」

広斗「福井を睨む。」

広斗「……検視結果勝手に見たのか」

福井「関係ありそうだったらそりゃ見ますう。あと、現場には盗撮用のカメラがあった。こつちも粉々だったけどSDカードはない。どこにいったんだろうね？」

広斗「女が持つて行ったんじゃねえのか」

福井「そういう事になつてるけどなんの為に」

広斗「アレコレが映つてたんじゃねえのか」

福井「真顔で言うよね。そういうのセクハラだからやめてくれる？」

広斗「お前がセクハラだ」

福井「（懇願するように）もうちょっと真剣になるうぜえ。俺の推理が正しければ次狙われるのは遠藤か宮本だと思ふんだよ」

広斗「じゃあ大事に大事に見張つとけよ」

福井「（泣きつく）協力が当てる。足元に手を伸ばすとガチャガチャの殻が出てくる。福井「おいおいおい。公安が遊んでていいんですか」

福井「一瞬動揺する。」

広斗「ほつとけ。暇なんだよ」

福井「あゝあゝ、荒んじまつて」

辰巳「助手席ドアを開ける。」

福井「あ、ごめんね。お邪魔しましたあ」

福井「去る。」

辰巳「助手席に座る。」

広斗「煙草の火を消す。」

広斗「（ギアを入れて）行くぞ」

辰巳「いいんですか。放つておいて」

広斗「噛ませ犬に丁度いい。過去の復讐劇なんぞ興味はねえ。大事な今は今後だ」

辰巳「まあ、俺達の親父が生きてたとしても、そう言うでしようね」

車が走り出す。

○（回想）16年前・久木家・リビング（夕
辰巳（16）、ノートパソコンで勉強
中。

慎一郎（45）、玄関を乱暴に開けて
リビングに駆け込んでくる。

慎一郎「貸せ」
慎一郎、辰巳のパソコンを奪う。

辰巳、驚く。
慎一郎、パソコンにSDを挿す。

辰巳「どうしたんだよ」
慎一郎、無言でパソコンを操作する。

辰巳「……辰巳、新しいSD持っているか」
辰巳「あるよ」

慎一郎「貸してくれ」
辰巳、新しいSDを真一郎へ渡す。

慎一郎、SDをパソコンに入れてデ
ータを移す。取り出して辰巳に渡す。

辰巳「何入れたの」
辰巳「これはお前が持っておけ……中は見
るなよ」

慎一郎、立ち上がる。
慎一郎「署へ行ってくる」

辰巳、父に呼びかける。
玄関の閉まる音がする。

辰巳（32）の声「それから親父は一度も家
に帰って来ることなく、半年後に死んだ。

左遷されたことも知らなかった。言い辛か
ったんだらうと周囲は言った。違うと知っ
ていたのは、俺だけだ」

○現在・公安の車・中（昼）

辰巳、助手席でパソコンを操作中。
天祥会の裏帳簿が映っている。

○SDの動画・天祥会本部・地下室
唯、複数の男達に抑えられ、皮を剥が
れている。

綱吉（19）、殺害を撮影している。

○居酒屋・店内（夜）

店内に客はいない。

元親、厨房で仕込みをしている。

哲也、食器を片付けている。

西田、テーブルを拭いている。

ガラス戸を叩く音がする。

西田「はい」

西田、扉を開ける。

遠藤、扉の傍に立っている。

元親、厨房から出てくる。

遠藤「：：助けてくれ。犯人からも天禅会からも」

元親、遠藤を中に入れる。

元親「：：全部話してくれ」

× × ×

元親、西田、哲也、遠藤、座敷に座る。

遠藤「最初の頃は、どこにでもあるような宗

教団体だった。女神様を祀って、正しい行

いを心掛ける。周りにもそれを広める。そ

うすれば皆救われるって。先祖供養の一環

みたいな感覚で皆始めたんだ：：」

遠藤、俯いて話す。

元親「ああ、そうすればご先祖様も喜ぶんだ

って、親父がよく言ってた：：」

元親、目を伏せる。

遠藤「：：だが教祖の娘が政治家の妻になっ

て、天禅会も公正平和の党も有名になるに

つれて、段々行動が過激になってきたんだ。

裏金や票集めなんて暗黙の了解だった。そ

れどころか信者に多額の寄付を強要したり、

土地を献上させたり：：」

○（回想）20年前・天禅会本部・地下室

柘山巧（79）、必死にドアを叩く。

扉は開かない。

遠藤の声「この辺りの名士だったじいさんは

地下に監禁されて餓死させられた」

巧、扉の前で崩れ落ちる。

○（回想）20年前・同・一階・集会場

柘山ふさ子（79）、信者達に囲まれ、

震えながら遺書を書いている。

遠藤の声「女房の方は遺産を教団に寄付する

って遺書を書かされて殺された。自殺に見

せかけて……」

信者、背後からふさ子に近付き、首に

ロープをかける。

○（回想）20年前・同・外・焼却炉前（昼）

浅野太一（24）、信者達に引き摺ら

れる。

遠藤の声「教祖の娘の聖良さんに色目を使っ

た若い信者は、焼却炉に入れて殺された」

浅野、燃えている焼却炉に入れられる。

○現在・居酒屋・店内（夜）

哲也、西田、絶句する。

元親「その被害者の名前は？」

遠藤「男の方はわからん。新参者だったし」

元親「ならじいさんの方は？」

遠藤「柘山だ。元々ここら辺全ての土地を持

つ地主の家系だった」

元親「柘山……」

西田、元親を窺うように見る。

元親、西田に首を振る。

哲也「……誰も警察に言わなかったのかよ」

哲也、遠藤を責める。

遠藤、自嘲する。

遠藤「警察なんて……。天禅会や公正平和の

党が絡んで意味がねえ。実際に告発しよ

うとして警察に逃げ込んだ奴がパトカーで

教団に戻されてくる事だった」

元親「そいつらはどうなったんだ？」

遠藤、沈黙し首を横に振る。

元親、苦悶の表情を浮かべる。

西田「でも福井さんが潜入捜査官もいたって」

遠藤「遠藤、両手で顔を覆う。」

遠藤「そいつと内通していたのが高柳唯だ。」

：：綱吉様の命令で俺達は見せしめとして
あの子を殺したんだ。あの娘と関係ありそ
うな奴らを地下に集めて」

○（回想）16年前・天祥会本部・地下室

遠藤（38）、松浦（38）、松井

（38）、宮本（38）、覆面を被る。

唯（14）を抑えつけて皮を剥ぐ。

隼人（40）、その場を立ち去る。

遠藤の声「逃げた男を追いかけて殺した」

遠藤、松浦、松井、宮本、隼人を追う。

○（回想）16年前・山林（夜）

隼人、山中を走って逃げる。

遠藤、隼人の後頭部を鉄パイプで殴る。

松浦、松井、宮本、追い付いて隼人を

鉄パイプで殴る。

隼人、死ぬ。

遠藤、隼人の遺体からカメラを奪う。

S Dがないことに気づき辺りを探す。

遠藤の声「でもカメラに入っていたはずのS

Dは見つからなかった」

遠藤、宮本、松浦、松井、地を這って

S Dを探す。

眞一郎（45）、遠くの木陰からその

様子を見ている。手にはS D。

その場から逃走。

○現在・居酒屋・店内（夜）

遠藤、深い溜息を吐く。

遠藤「：：聞いた話じゃS Dは倉橋幸吉が警

察に手を回して握り潰したらしい。でもそ

の間遺体を山中に置いてたのが悪かった。

行方不明に見立てて始末する前に見つかっ

て」

○（回想）16年前・山林（朝）

不法投棄業者、トラックを降りる。

粗大ごみを下ろす。

茂みの中に隼人の死体を見つける。

不法投棄業者、悲鳴を上げる。

○現在・居酒屋・店内（夜）

西田、苦悶の表情で目を逸らす。

哲也「通報された」

遠藤「ああ、だから偽の犯人を仕立て上げる

必要があつた。それで選ばれたのがあの娘

と警察官の事を密告した、井ノ浦さやか」

遠藤「……元親をゆっくりと見つめる。」

元親「……元忠が殺した」

遠藤「……顔を歪め俯く。」

遠藤「あいつあの事件の時丁度その場にいな

くて。一人だけお清め代が貰えなかつたん

だ。それが悔しかつたんだらう。灯油をか

けて殺してやったつて……」

哲也「（愕然と）お清め代つて、そんなもん

の為に人殺す奴があるかよ……」

遠藤「……おかしかつたんだ、皆。言うこと

を聞けばお清め代だなんだつて金が次々貰

える。地元でも優遇されて、周りからも羨

ましがられて。だけど」

遠藤、俯いて顔を両手で覆う。

遠藤「だけど、元忠の言葉で一氣に正氣に戻

つた。笑いながらそんなことを自慢するあ

いつを見て、皆我に返つたんだ。元忠自身

も、多分……」

元親、唇を噛む。

遠藤「和也は逃げた。元忠も病んじまつた。

宮本の奴もさつさと逃げやがつて……」

西田「宮本つて通夜にいた人ですか」

遠藤「さつき家に行つたらもぬけの殻だつた。

最近はお娘の姿も見つてなかつたし、あいつこ

つそり逃げる準備勸めてやがつたんだ！」

遠藤、堪え切れず叫ぶ。

元親、哲也、西田、顔を見合わせる。

○公安の車・中（夜）

広斗、辰巳、居酒屋を盗聴中。

広斗「録音は」

辰巳「できてます」

広斗「よし」

○居酒屋・店内（夜）

元親「とりあえず安全な所に逃がす」

哲也「どこにだよ。これが本当なら天禅会だ

って何してくるかわかかねえぞ」

西田「あの、宮本って人も一緒にいた方がよ

くないですか。あの人も狙われてるんじゃない」

元親「そうだ、光己先輩に連絡してみよう」

元親「スマホを取り出す」

○廃工場・中（夜）

蛭一「あ、ドラム缶に座り電話中」

蛭一「わかった」

電話を切る。

扉が開く音が聞こえる。

蛭一「顔を上げる」

宮本「震えながら中に入ってくる」

蛭一「……やあ」

蛭一「微笑む」

宮本「宮本、蛭一に近づく」

宮本「娘を、返してくれるのか」

蛭一「今日は別に娘を返すために呼んだわけ

じゃないよ」

宮本「宮本、泣きそうになりながら叫ぶ」

宮本「約束しただろ！あのフィルムを盗ん

でくれば娘を返すって！」

蛭一「したね。でも今じゃない」

蛭一「微笑んで肩を竦める」

宮本「頼むから返してくれ！たった一人の

娘なんだ！次は何を取ってくればいい？

倉橋綱吉を誘き出すか？なんでもやる！」

宮本「宮本、その場に座り込む。水溜まりで

足が濡れる」

蛭一「ああ、あのフィルムは助かったよ。あ

れが拡散できたおかげで松井和也がすぐに

見つかかった」

宮本「（震えながら）も、もし遠藤の居場所
が知りてえって言うなら俺が家まで――」
蛭一「それは知ってるから大丈夫。向こうも
自白したみたいだしね」
蛭一、立ち上がる。傍に置いてある長
靴を履く。
宮本「じ、自首したのか。なら俺も――」
宮本、思わず立ち上がる。
蛭一、ドラム缶の影からケーブルを取
り出す。火花が散っている。
蛭一「させるわけないじゃーん」
蛭一、水溜まりにケーブルを投げる。
ケーブルから電気が走る。
宮本、悲鳴を上げる。
工場内、停電する。
蛭一、スマホのライトをつける。
黒焦げの宮本の死体が照らされる。
蛭一「お前が皮を剥いだ子も、誰かの娘だっ
たよ。お前達が殴り殺した男も、誰かの息
子で父親だったよ。：：お前達が焼き殺し
た女も、一応母親だったんだよ」
蛭一、メッセージを地面に置く。
「16年前 皮 かせ」と印字され
ている。

○県警・捜査一課（夜）

福井、パソコンを睨む。
画面に新聞の記事が表示されている。
「遭難。遺体で見」 「妻自殺」 「天
禅会に遺産寄付の遺書」と掲載。
タブを切り替えると別の写真が表示。
柘山孤児院の前で微笑む柘山夫婦の写
真。大勢の子供達に囲まれている。
隅に笹川（10）の姿。
福井、考え込む。電話が鳴り、出る。
元親の声「先輩、遠藤が自白した。助けてや
ってほしいんだけど宮本も心配なんだ。今
から探しに行こうと思ってる」
福井「ちよつと待て！」

福井「おい、宮本張らせた奴どうした」
刑事1「（困り顔で）巻かれたみたいでまだ
見つかってません」

福井「家の方は」
刑事1「まだそちらの確認までは……」

福井「（元親に向けて）俺が行くまで待て」
元親の声「でもこうしてる間に殺されてるか
もしれねえ。黙ってられねえよ！」
西田の声「俺、付いて行きます。哲也さんは
遠藤さんと一緒に居てください」
福井「わかった、宮本の家で落ち合おう。店
にも誰か向かわせる」
福井、部下に指示を出す。

○天祥会本部・10階・綱吉の執務室（夜）
綱吉、執務室の椅子に座り自慰に耽る。
パソコンで浅野の殺害動画が再生中。
果てると動画を止める。
綱吉、身支度を整える。
山下、ノックをして入室。綱吉に近寄
ってノートパソコンのモニターを見せ
る。

山下「こんなものが……」
パソコンには「16年前 皮 かせ」
と書かれたメールが表示されている。
添付ファイルを開く。
宮本が感電死する動画が再生される。

綱吉「うわああ！」
綱吉、部屋の外に飛び出す。

○同・1階・集会場（夜）

笹川、恍惚と肖像画を撫でる。
綱吉、駆け込んで笹川に縋りつく。

笹川「どうした、綱吉」
山下、綱吉と笹川に近づく。

山下「教祖様、こちらを」
綱吉「脅迫状だ！ 次は僕だよ！ おじいち

やん

綱吉、笹川に縋って叫ぶ。

笹川「なんだ、そんなこと」

笹川「大丈夫だよ、怖くない。女神様が守つ

てくださる。何も怖くないよ、綱吉」

○居酒屋・店内（夜）

哲也、遠藤、向かい合って座っている。

哲也「舌打ちをする。」

哲也「なんでお前らのせいでこんな目に遭わ

ねえといけねんだよ」

遠藤「遠藤、ムツと顔をしかめる。」

遠藤「その金ででかくなつた奴がえらそうに」

哲也「なんだと」

遠藤「事実だろ。俺達は何かある度に天禅会

からお清め代を貰つてたんだ。いい額のな。

お前の親父だつて毎回喜んでたぜ」

遠藤「遠藤、哲也を指さして笑う。」

遠藤「お前らも同罪だよ。俺達が人殺した金

で飯食つてでかくなつたんだからな！」

哲也「この野郎！」

哲也「立ち上がり遠藤を殴ろうとする。

外から悲鳴が聞こえてくる。」

蛭一「助けて！助けて！」

○同・入口前・外（夜）

哲也、外へ飛び出す。

蛭一、フードを深く被っている。足を

纏れさせながら哲也の元へ逃げてくる。

哲也「どうした！」

哲也「蛭一、肩を支える。」

蛭一「包丁を持った男が向こうで暴れてる！」

哲也「なんだと？」

蛭一「刺されそうになつたんだ！助けて！」

哲也「落ち着けつて！今警察がこっちに向

かつてるから一旦店に入れ！」

蛭一「（尚も叫ぶ）向うで暴れてて！」

哲也「だからわかっ！」

蛭一「哲也の腹を刺す。」

蛭一「（にんまりと笑う）ここに来たんだ」

哲也、倒れる。

遠藤、悲鳴を上げる。

遠くからパトカーの音。

蛭一、朦朧とする哲也の頭を踏む。

蛭一「肩だけどいいこと言ってるよ。人殺し

た金で飯食ってそこまですてかくなってるんだ

よ、お前らは」

○宮本自宅・玄関前・外（夜）

元親、西田、車から降りる。

家は施錠されていない。

元親、西田、室内を探すも無人。

福井、車で到着。

元親、西田、駆け寄る。

福井「元親、中の様子は？」

元親「誰もいねえ、でも鍵もかかってねえし」

無線が入る。

哲也が刺されたと報告される。

○病院・哲也の病室（朝）

哲也、ベットに寝ている。意識不明。

元親、西田、椅子に座り俯いている。

福井、元親に近づく。

福井「容体は？」

元親「安定したけど、意識が戻らない」

西田「搬送中に意識不明になったみたいで」

元親「遠藤は見つかりましたか」

福井「まだだ。自宅にも帰ってないみたいだ

し、捜索を続けている。だがそれより先に、

宮本の死体が見つかった」

元親、灯太、固唾を飲む。

福井「まだ公表しないけどな。場所は廃工場。

それから天禅会宛てに脅迫メールが届いた」

西田「脅迫って」

福井「件名なし。本文は「16年前皮か

えせ」。宮本が感電死した動画付き」

元親、西田、苦い顔をする。

元親「天禅会の方から通報してきたんですか」

西田「はっとして立ち上がる。」

西田「それって、罪を認めたってことですか」

広斗「んなわけねえだろ」

福井「福井、怪訝な視線を向ける。」

福井「なんでこんなところにいんの」

広斗「上から捜査協力の命令が入った。倉橋

幸吉の義父、笹川真善及び息子綱吉が身に

覚えのない脅迫を受けている。捜査に協力

しろ、だよ」

福井「ご機嫌斜めね。遠くでコソコソやるよ

り好都合じゃなか」

広斗「舌打ちして」それから遠藤。あいつ

天禅会に保護されてるぞ」

福井、元親、西田、驚く。

辰巳「友人達が次々死んでいくことで精神が

錯乱し妄想を語ってしまったと。よければ

彼の話も聞いてほしいと天禅会からお願

いがありまして。一緒にどうですか」

○別荘・1階・リビング（朝）

蛭一、ソファで寝ている。

○（回想）16年前・井ノ浦家・居間（夕）

蛭一（17）、

さやか（39）、口論

蛭一「母さん、啓二に修学旅行行かせないっ

て本気で言ってるの」

さやか「そうよ、そんなお金どこにあるの」

啓二（14）、部屋の隅で蹲り泣く。

蛭一、怒鳴る。

蛭一「だから、天禅会に出す金無くせばいい

だけだろが！」

さやか「そんなことしたら天罰が下るでしょ

う！私だって大変なのよ、毎日毎日『ご

案内』に歩いて！」

蛭一、テーブルに置かれた天禅会の名

刺を掴み、床に投げる。

蛭一「働きに出ればいいだろうが！集会だ

なんだって行かないで真面目に働けば普通

に暮らせる位できるだろうが！」

さやか「アンタ私を奴隷か何かだと思ってるの！母親に向かつて働けだなんて！」

蛭一「じゃあこれからどうするつもりだよ！さやか「その為に祈るんではないが！アンタみたい奴は今の地獄に落ちるから！碌な死に方しないから！」

蛭一「誰が遊んで——」

さやか「誰か、黙れ黙れ黙れえ！」

蛭一「頭を叩きよるける。」

蛭一「……くそ。ガキかよ。」

蛭一「……舌打ちをする。」

蛭一「……心を配そうに啓二に近寄る。」

啓二「友達は新しい服も教科書も買って貰えるの。ご飯だっていつも食べれるの。お金の無いって、そればかり。じゃあ子供なんか産まなきゃいいじゃん！」

蛭一「……啓二の頭を撫でる。」

啓二「……大丈夫だ、兄ちゃんがいるから。」

啓二「兄ちゃん……」

蛭一「好きだろ。チョコ。食ったら忘れる。兄ちゃんが大丈夫にしてやるから。」

啓二「泣きながらチョコを食べる。」

蛭一「涙を堪え、啓二の頭を撫でる。」

啓二「……啓二、声を上げて泣き出す。」

啓二「……啓二……もういやだ。普通の家がいい。」

啓二「……啓二……もういやだよ。」

啓二「……啓二……もういやだよ。」

啓二「……啓二……もういやだよ。」

○（回想）16年前・コンビニ前・道路（夜）
近藤「近藤忍（21）、蛭一、話中。」
近藤「悪いな、俺が遅刻したせいで残業させ
ちまってる」

蛭一「いえ、全然大丈夫です」
近藤「これ持っていけ。頂き物だけど」

近藤「近藤、実家（寺）の余り物の菓子を蛭
一に渡す。」

蛭一「袋を貰い嬉しそうに中を覗く。」

近藤「今日は廃棄の弁当出なかったのか」
蛭一「（残念そうに）今日はなかったです」

近藤「出たらLINEするわ。取りに来いよ」
蛭一「ありがとうございます」

蛭一「近藤と別れ、歩き出す。」

○（回想）16年前・道路（夜）

歩く蛭一。スマホが鳴る。

「バイト終わったか」というメッセージ
がくる。

蛭一、「次のやつ行くわ」と返信。

再び返信がくる。「次いつ学校くるん
だよお前」と表示。

蛭一、苦笑してスマホを仕舞う。

交通誘導員「遠くから手を振る。」
交通誘導員「おおい、早くしろよ新人」

蛭一「遅れてすみません」

蛭一「駆け寄って頭を下げる。」

○（回想）16年前・帰宅途中の道路（夜）

蛭一、通帳を見ながら歩く。

家の方角に火が上がっている事に気付
く。

蛭一、通帳を落として駆け出す。

○（回想）16年前・井ノ浦家・居間の窓・
外（夜）

蛭一、居間の窓に駆け寄る。

押し入れに背を預けて泣き叫ぶ啓二。
さやか、柱に縛られ燃えている。

蛭一「啓二！」

蛭一、石で窓ガラスを割る。

中に飛び込み啓二を支え、外に出る。

啓二、泣きながら中に戻ろうとする。

蛭一、啓二を羽交い絞めにして止める。

啓二「母さん、なんで、なんで、いやだあ」

蛭一「さがれ！ 啓二！ 下がれ！」

啓二「離して、離してよお！」

蛭一、啓二、その場に座り込む。

泣きながら、燃える家を見つめる。

○現在・別荘・1階・リビング（朝）

蛭一、目を覚まし、両手で顔を覆う。

蛭一「大丈夫にするよ、兄ちゃんが大丈夫にしてやるから」

○同・地下室（朝）

蛭一、鍵を開けて階段を下りる。

床に宮本の娘・宮本真奈（19）が気

絶している。両手は縛られ目隠し。

蛭一「真奈を抱き上げて見つめる。」

蛭一「……許さなくていいよ。俺もあんたら

の親父がしたことは許せない。おあいこだ

とも言わない」

蛭一、真奈を抱えて外へ出る。

蛭一「俺は碌な死に方をしないから……ざま

あみろって、思えばいい」

○天祥会本部・駐車場・外（昼）

広斗、辰巳が乗った車、福井、元親、

西田が乗った車が到着。全員降りる。

広斗「なんでこいつらまで」

福井「仕方ないでしょ。妄想を語られたのは

彼らなんだから」

辰巳「一ノ瀬さん」

辰巳、広斗に目配せする。

正面玄関で笹川、綱吉、山下が待つ。

遠藤、その後ろに立つ。

広斗「（小声で）わざわざ呼びつけやがって」

辰巳「被疑者としての任意同行ができればよ
かつたんですけどね」
福井「哲也くん駆けつけたうちの者に犯人は
遠藤じゃないって言っちゃったもんねえ。
まあ、それがなくなっちゃってここに逃げ込んだ
段階で無理でしょ」

○公平平和の党事務所・執務室（昼）

幸吉「机を叩き怒鳴る。」

幸吉「馬鹿か！ 自ら警察を招き入れるなんて
て白痴してやるようなものだろう！ 身に覚
えのない脅迫なんて誰が信じるんだ！」

倉橋聖良（57）、ソファに座り、幸
吉を一瞥する。

聖良「あら、貴方のようにココソ裏から手
を回すより余程健全でしょ」

幸吉「聖良、そもそもお前があいつのことを
きちんとしてないからこんなことに！」

聖良「（ムツとして）貴方が言う？ 高柳つ
て言ったかしら、あの娘」

聖良「立ち上がり幸吉に近寄る。
ネクタイを掴み、引き寄せる。」

聖良「あの女の娘よね。碌に家にいなかった
貴方が大事に大事に困ってたあの女。まさ
か死んだ後に娘を教団前に捨てるなんて、
よくもそこまで悪知恵が働くものね」

幸吉「たじろぐ。」

聖良「それ比べたら余程健全な手口よ」
聖良「ネクタイから手を離す。」

幸吉「1歩後退る。」

幸吉「お前まさか知っていて綱吉に……」

聖良「冗談よして。私が娘の素性を知ったの
は死んでからよ。お父様や綱吉がどうだっ
たかは知らないけど。でも自業自得よね。
不倫女は死に、その娘は本妻の息子に殺さ
れた。これこそが天罰だわ」

幸吉「滅多なことを言うな！ 綱吉の出馬が
控えているんだぞ！」

聖良「だからこそ何とかしてあげるのが父親
の役目でしょ。それ位の役には立って頂戴」

聖良、立ち去る。

執務室の扉が閉まる。

幸吉「くそ……！」

幸吉、ソファを蹴る。

○同・立体駐車場（昼）

蛸一、運転手の服を着て車の前に立つ。

聖良、歩み寄り車に乗り込む。

聖良「出して頂戴」

蛸一、運転席に乗り込み発進する。

バックミラーを見ると黒いバンがプロ

パンガスの前に駐車されている。

○同・執務室（昼）

幸吉、秘書達と話す。

秘書1「先生、もう切り捨てた方が」

幸吉「どうやってだ。あいつら2言目には裏

金裏金と」

秘書2「脛に傷があるのはお互い様でしょう。

16年前のSDの件だってそもそもは彼ら

が発端です」

秘書1「宗教関連はただでさえ世間の注目を

集めます。今のうちに縁を切った方が」

秘書2「綱吉さんには申し訳ありませんが、

天禅会から洗脳を受けて先生も悩んでいら

っしゃったとメディアに広めても」

秘書1「むしろそうすることで宗教2世に寄

り添うイメージを広めることができるかと」

○天禅会本部・10階・応接室（昼）

笹川、綱吉、遠藤、ソファに座る。

山下、その背後に立つ。

福井、広斗、辰巳、元親、西田、向か

いのソファに座る。

壁に設置されたスクリーンで宮本が殺

害された映像が表示される。

福井「メルには「16年前皮かえせ」

とありますが、何かに覚えはありますか？」

笹川「いいえ、まったく」

福井「犯人や動機には一切心当たりはないと」
笹川「はい」
福井「広斗、眉を寄せる。」
福井「では、今世間で話題になつてゐるスナ
ッファイルムについては何かご存じですか」
笹川「他の警察の方から聞きました。以前入
会されてゐた高柳唯さんが被害者だと。そ
んな目に遭つていたなんて」
辰巳「笹川、落胆したように溜息を吐く。」
辰巳「当時、高柳唯さんの後見はこちらの信
者の方が務めており、この施設で養育をし
ていたと聞いたのですが」
山下「後見を務めていたのは私です。教団の
門の前に置き去りにされていたものです。か
ら放つておけず……」
笹川「あの頃はまだ児童養護施設などもそれ
ほど無く、同じ境遇でこの施設で育つた子
も少なくありませんでした。実は私もそう
いつた境遇でした。」
福井「知つてます。柘山孤児院ですよ。」
福井「笹川、息を呑む。」
福井「笹川を見つめる。」
辰巳「……笹川、すぐに微笑み、驚きを隠す。」
辰巳「……彼女が行方不明になつた際、失踪
届等は出されませんでしたか」
笹川「いいえ、彼女は自分の意志で出て行つ
たと聞いておりますので……」
笹川「山下を見る。」
山下「山下、頷く。」
山下「当時彼女は素行が悪く、歓楽街に入り
浸るような状態だったんです。ここを出て
行くときも、「これからは一人で生きてい
く」と言つていきましたので」
辰巳「14歳の少女が言うことを真に受けた
んですか」
辰巳「眉を顰めて山下を見る。」
笹川「やはり我々は宗教団体ですので、当人
の意思を無視して強く引き留めたり連れ戻
すといったことは憚られまして……」

元親「耐えきれず立ち上がる。
元親「遠藤は『見せしめに殺された』って言
つてたぜ」
遠藤「ぎよっとする。」
遠藤「違う、俺はそんなこと言っていない！」
元親「何言ってるんだよ。お前が言ってきたん
だろ。うが助けてくれって」
遠藤「違う、俺はそんなこと言っていない！」
元親「お前！」
元親「遠藤に掴みかかろうする。」
綱吉「遠藤の前に立ち、制止する。」
綱吉「実は彼は以前から妄想や幻覚に悩まさ
れているんです。そうでしょう。遠藤さん」
綱吉「助け、振り返り、遠藤に微笑む。」
綱吉「助けて、欲しかったんですよね」
遠藤「戸惑うが、すぐに頷く。」
遠藤「そ、そうです、そうです！　なのに俺
は折角助けてくださっていた教祖様や綱
吉様の顔に泥を……」
遠藤「遠藤、笹川と綱吉に向け土下座する。」
遠藤「（震えながら）すいませんでした！」
綱吉「誰にでも過ちはありますよ。遠藤さん」
笹川「そうですよ。我々と同じ神を信じる家
族だ。許し合い、支え合って生きていくも
のですよ」
笹川「綱吉、屈んで遠藤の背を擦る。」
山下や信者達、微笑み拍手する。
広斗、つまらなそうにスマホを弄る。
福井、広斗を肘で突く。
福井のスマホが鳴る。
福井「……宮本真奈が保護された？」
刑事「……宮本真奈が保護された？」
刑事「……宮本真奈が保護された？」
と、ところを発見されました。意識もあります」
遠藤「……真奈ちゃん」
笹川「……真奈ちゃん」
笹川「信者一同祈りを捧げていた甲斐があっ
た。これこそ女神様の御慈悲だ」
綱吉、山下、微笑みながら頷く。
笹川「他の信者の皆さんにもお伝えしておく

れ。か弱き命が一つ救われたと。礼拝堂に皆を集めよう」
笹川、山下へ指示する。

○同・1階・エントランス（昼）

信者達が集会場へ集る。

福井、広斗、辰巳、元親、西田、遠巻

きにそれを見つめる。

福井「畳部屋に女神の肖像画ってどうなの？

もうちよつとセンス欲しいよね」

広斗「……まあな」

広斗、肖像画を無表情で見つめる。

○別荘・地下室（夜）

聖良、猿轡で椅子に縛られている。

蛭一、聖良の目の前に立つ。

蛭一「そんなに怯えなくてもいいと思うよ。

俺はちよつと知りたいだけなんだよね」

聖良、震えている。

蛭一「でも素直にはなってもらいたいから、ちよつとだけ痛くするよ」

蛭一、聖良の額をナイフで切る。

聖良、猿轡の中で絶叫する。

蛭一「暴れると、死んじゃうよ？」

蛭一、切り終えて傷を指で撫でる。

蛭一「ねえ、アンタはさ。あのスナッフフィルム、見た？」

聖良、首を振る。

蛭一「ちやんと見なよ。自分の息子が仕出か

したことだよ？」

蛭一、傷に指を突っ込んでいく。

聖良、悲鳴を上げる。

蛭一「よく言うじゃん。子供の責任は親が取

れつて、さ」

蛭一、聖良の顔を剥ぐ。

聖良、絶叫する。

蛭一、聖良を見て微笑む。

聖良の顔を皮を翳す。

蛭一「これを送ればアンタの親父や息子はわ

かるかな。アンタの皮だって」

聖良「た、笑いなから聖良の猿轡を外す。」

蛭一「た、助けて、助けて、殺さないで。」

蛭一「そう言つてた人達を、アンタ達一家はどれだけ殺してきたんだろうね？」

聖良「あああたしじゃない、あたしじゃない。」

蛭一「でもアンタが生んだ男だよ。アンタを育てた男だよ。」

蛭一「わかつたら責任取つて素直に答えてね。」

蛭一「あの子は、どこ？」

○病院・真奈の病室（昼）

福井「辰巳、真奈に事情聴取。」

真奈「はい。目が覚めたら縛られて目隠しさ

福井「犯人は君に話しかけることあつた？」

真奈「はい。」

福井「なんて言つてた？」

真奈「ちやんと帰すから、ちょっとだけ我慢しててねって。」

福井「周りの様子とか、場所の特徴は何か覚えてることないかい？」

真奈「すごい風の音が響いてました。葉っぱの音つて言うか、あと上から足音が聞こえることがありました。」

福井「山……地下……？」

真奈「あの、家族に連絡をしたいんですけど。」

福井「あ、ああ、そつか。」

福井「他の刑事に対応を任せる。」

○同・廊下（昼）

福井「宮本は娘を人質に取られていた。そして犯人に何かを命じられていた。誘拐され

た時期は、松井和也が殺される前。スナツフィルムが一回つた辺りか。」

辰巳「宮本がスナッフフィルムを天禅会から

盗んだ可能性も？」

福井「大いにあるね」

福井「福井、顎に片手を添え考える。」

福井「次に狙われるとしたら遠藤、倉橋、笹

川のいずれか、か？でも松井哲也が刺さ

れたのも気になる」

辰巳「宮本真奈は無事、松井哲也は重体。彼

女の話の話を聞く限りあくまでタ―ゲットは父

親達。その子供にまで危害を加えるつもり

はなかったように思えます。遠藤を殺そう

として邪魔だったから、ですかね」

福井「でもそれにしたってここまで手際よく

やる奴が獲物を簡単に逃がすかね」

辰巳「辰巳、足を止める。」

辰巳「わざと遠藤を逃がした、と？」

福井「福井、振り返り辰巳を見る。」

福井「遠藤は自首すればまず拘留されるだろ

う、殺したい奴からすれば迷惑極まりない」

辰巳「なら、もし遠藤が天禅会じゃなくて警

察の方に逃げ込んでいたら――」

福井「そうなる前に殺されていたかもね」

辰巳「（苦々しい顔で）……求めているのは

謝罪や反省ではない、と」

福井「そういうことだね」

○同・哲也の病室（昼）

哲也、意識不明。

元親、椅子に座って俯いている。

西田、元親に缶コ―ヒ―を渡す。

元親「悪いな、色々巻き込んだりして」

西田「いえ、俺は大丈夫です。でも少し寝た

方がよくないですか。顔色悪いですよ」

元親「うん……」

元親「元親、俯く。視界に西田のぼろぼろの

スニ―カーが映る。」

元親「お前、靴ぼろぼろだぞ」

西田「西田、驚いて一歩後退る。」

元親「元親、それだと足痛くなるだろうが。ほら、

これで買ってこい」

元親、財布から金を取り出す。

西田「いいですいいです！　お金はちゃんと

持つてるんで！」

元親「本当か？」

西田「はい、大丈夫です」

元親「そっか……」

元親、靴を見つめたまま呟く。

元親「……昔ってさ、今ほど物が安くねえじ

ゃん。裕福な家も田舎じゃそんなねえしさ。

割と皆、靴とか服とかぼろぼろだったよな」

西田「ああ、結構いましたよね。そういう奴」

元親「だろ？　でもさ、俺も哲也も、割と新し

い物とか買って貰えることが多い、よく

周りに羨ましがられてたんだ」

○（回想）　23年前・天禅会本部・駐車場・

外（昼）

元親（10）、哲也（10）、しゃが

んでトミカで遊んでいる。

啓二（7）、二人に近づく。汚れた服。

啓二「（緊張しつつ）ぼ、ぼくもあそばせて」

元親、啓二の汚い身なりに一瞬怯む。

啓二、じっと元親を見つめる。

元親、仕方なさそうに身を起こす。

元親「……いいぜ」

啓二、喜んでトミカに触ろうとする。

哲也「は？　やだよ、あっちいけよお前！」

哲也、立ち上がって啓二を突き飛ばす。

元親「おい、やめろよ！」

哲也「いけてば！　きったねえ！」

哲也、元親の制止を振りほどく。啓二

に石を投げる。

啓二、驚いて転ぶ。そのまま這いずつ

て泣きながら逃げていく。

哲也「ふん！　ざまあみろ！」

元親「哲也、反対方向へ走り出す。

元親「哲也！　ったくもう」

元親、哲也を追いかけてしようとする。

元忠（31）、元親に声を掛ける。

元忠「おおい、元親！ 帰るぞ！」

元親「まって！ 父ちゃん！」

元親、父を追いかける。

元忠、車に乗ってエンジンをかける。

元親、助手席に乗る。

元忠「元親！ お前が欲しがってたスニーカー買ってやれるぞ！」

元親「（興奮しながら）まじで！」

元忠「お清め代つてのが出たんだ。神様の為

にいいお仕事をしたからってさ」

元親「父ちゃんすっげえ！」

元親、喜ぶ。

元忠、ジツポで煙草に火をつけてから

車を発進させる。

元親、走る車内から啓二を見る。

蛭一（10）、泣いている啓二の頭を

撫でて慰めている。身なりは汚い。

元親「父ちゃん、あの子達も、信者？」

元親、蛭一と啓二を指さす。

元忠、サイドミラーで一瞥する。

元忠「ああ、きちんと神様の為に働いてない

とあんな風になる。ご先祖様もお怒りにな

るんだ。お前も気をつけるよ」

元親「うん！」

車が駐車場から走り去る。

○現在・病院・哲也の病室（昼）

元親、俯いている。

元親「哲也は俺達に何の関係もねえって言っ

てたけどな。本当にそうか？ 人殺した金

で、綺麗な靴とか服とか買って貰って、人

殺した金で飯食って俺達今まで……」

元親、両手で顔を覆う。

西田「元親さん……」

西田、辛そうに元親を見る。

元親、誤魔化すように笑う。

元親「悪い、なんか暗くなつたな。お前今日

はもう帰れ。俺ももう少ししたら帰るわ」

西田、元親に挨拶し病室を後にする。

西田の手の中でスマホが点滅中。
窓の外、雨が降り出す。

○天禅会本部・1階・集会場（夜）

笹川、肖像画を床に置き、絵の具で重ね塗りをしている。

山下、笹川に近付き、報告する。

山下「公平平和の党がこちらを切り捨てよう
と画策しているようです」

笹川「ふん。欲に溺れるとはなんと浅はかな」

山下「聖良お嬢様をお呼びになりますか」

笹川「そうだな」

笹川、立ち上がる。

笹川、山下、集会場を後にする。

綱吉、無人になった集会場に入る。

肖像画の前に座りそつと触れる。

○（回想）20年前・同・1階・集会場（夜）

ふさ子の死体が置かれている。

笹川（58）、死体の前に座る。

医者達、死体を囲んで座る。

綱吉（15）「おじいちゃん、それは？」

綱吉、笹川の横に現れてふさ子を覗き込む。

医者達、笹川の顔を窺う。

笹川「（医者に向け）いいよ、続けてくれ」

医者達、ふさ子の服を脱がせていく。

笹川、綱吉の頭を撫でながら説明する。

笹川「本当はこのまま火葬されるんだがね」

綱吉「この人は違うの」

笹川「この人は女神様だからね、これからも
見守ってくださいるようにすり替えたんだよ」

医者達、ふさ子の皮を剥いでいく。

綱吉、見つめながら息を荒くしていく。

○現在・同・1階・集会場（夜）

綱吉、肖像画を撫でながら自慰に耽る。

○山林（夜）

雨が降っている。

蛭一、シャベルで土を掘り返している。土中に埋まる青いビニールを見つける。シャベルを置き、ビニールをゆっくり広げる。

蛭一「……やあ、初めまして」
蛭一、泣きそうな顔で微笑む。

○願浄寺・山門（朝）

寺男、青いビニールに包まれた遺体を見つける。悲鳴を上げて住職を呼ぶ。住職・近藤（37）、駆けつける。遺体の上に茶封筒が置かれている。

近藤、茶封筒を開く。

中に100万円入っている。

近藤「（呆然としながら）なんてことだ……」

× × ×
鑑識、遺体の写真を撮る。

福井、刑事1と話す。

刑事1「どこかから掘り起こされたのではないかと。骨格からして女性か、子供か」

福井「（考え込みながら）……高柳唯の歯科治療記録と照合してくれ」

刑事1「（驚いて）……まさか」
広斗、現着。福井に歩み寄る。

福井「おや、一緒に調べるの？」

広斗「んなわけねえだろ。それより倉橋聖良の行方が知れねえらしい」
捜査員達、ざわつく。

○公正平和の党事務所・執務室（昼）

幸吉、入室。

秘書達、幸吉に駆け寄る。

幸吉「警察への通報は」

秘書1「既に天禅会からされています」

幸吉「（責めるように）何故気付かなかった」

秘書達、頭を下げる。

秘書1「申し訳ございません。いつものようにご旅行に行かれましたもの」と

幸吉、苦い顔をする。

幸吉「あいつの行き先を把握していなかったのが失敗だった。監視カメラに何か手掛かりは写っていないか」

秘書2「それなんです。こちらを」
秘書2「ノートパソコンを持って幸吉に近寄る。」

モニターには立体駐車場の監視カメラの映像。駐車中のバンを映している。

秘書2「この黒いバンなんです。どこの業者・関係者のものでもないようです」

幸吉「今この車はあるのか」

秘書1「はい、警備の者が中を確認しようとしているところです」

○同・立体駐車場（昼）

警備員達、バンに近づく。

懐中電灯で中を照らす。無人。

慎重にバンのドアを開く。

ビルが爆発する。

○居酒屋・店内（夜）

大勢の客で賑わっている。

客1「ずっと閉まってたから心配したよ」

元親「すいません。今哲也が入院してて」

客2「まじか、あの爆発事故か？」
元親「驚く。」

元親「爆発って？」

客3「知らねえのかよ、昨日結構な騒ぎになったんだぜ。公正平和の党の事務所！ガ

ス管の老朽化だからんだかって」
西田「驚いてテレビをつける。」

アナウンサーの声「現在も火は燻り続けてお

り倉橋幸吉氏の安否が気遣われます。爆発

時、近くを通りかかった方の話により

と、事務所に併設する立体駐車場から

元親「西田、呆然とテレビを見る。」

客達「夢中で話している。」

元親「拳を強く握る。」

元親「……悪い、灯太。後頼むわ」

西田「え、元親さん！」

元親、エプロンを脱いで出ていく。

西田、元親を追いかける。
元親、車に乗り込む。西田の制止を無視し、発進する。

○別荘地・道路（夜）

別荘は全て消灯している。

福井、広斗、辰巳、懐中電灯で辺りを照らす。

広斗、急そうに歩く。

福井「仕方ないじゃん、皆爆発事件で出払っ

ちやつてるんだからさ。それにお前だって

わかつてるだろ？」

福井、広斗を見る。

福井「終わったところ見てたって解決しない。

まだまだ続くだろうしねこの事件」

辰巳「しかしそれを元に犯人が特定できる場

合もあります」

福井「意味ないと思うね。こんだけ派手に、

しかもテンポよく犯行が続いてたらさ、特

定できた頃には皆死んでるんじゃない？」

広斗「（溜息を吐きながら）まあな」

福井「葉っぱの音に地下、身を隠すとしたら

やっぱりの別荘地辺りだと思っただよね」

福井「そういや検視の方どうなった」

福井「（心外な顔をして）昨日の話だよ？」

進んでるわけじゃないじゃん！一応最優先で

とは言ったけどさあ」

辰巳、福井と広斗の後に続く。

窓が全開になっていて別荘を見つける。

辰巳「一ノ瀬さん、福井さん」

広斗、福井、振り向く。

辰巳、懐中電灯を別荘の窓に向ける。

○別荘・1階・リビング（夜）

広斗、福井、辰巳、窓から室内へ入る。
室内は無人。

福井、地下室への扉を見つける。

○同・地下室（夜）

広斗、福井、辰巳、警戒しつつ地下へ下りていく。

明かりを点けると床に缶詰、毛布、口
丨プ、薬、血痕が散乱。

辰巳「……見つけましたね」

広斗「ああ」

福井「すぐに応援呼んで——」

福井、スマホを取り出す。着信が入っ
ている。階段を引き返す。

福井「わり、代わりに応援呼んでくれ」

辰巳「はい」

○同・1階・リビング（夜）

福井、地下室の出入り口で一枚の紙を
踏む。手に取ると絵画だと気付く。

首を傾げ室内を見渡す。

額縁の跡を残して日焼けしている壁が

あることに気付く。

福井、訝しみつつも電話をかける。

福井「どうした？」

刑事1の声「天禅会の前で騒いでいる奴が」

○天禅会本部・駐車場・外（夜）

元親、刑事達、言い争う。

元親「どけよ、俺は教祖と話してえんだ！」

刑事1「そういうわけにいかないだろ、今何

時だと思っただよ」

元親「あんたらに何の関係があるんだよ！

天禅会に金でも握らされてんのか！」

刑事1「ああ？　んなわけねえだろが！」

元親「嘘つくんじやねえよ！　警察に逃げ込

んだ奴がパトカーで連れ戻されたこともあ

るって聞いたぞ！　そいつらがどうなった

かアンタら知っただよかよ！」

元親「刑事達、息を呑む。

元親「皆殺されてんじやねえのかよ！　お前

らだって同罪だよ、このままじゃ手遅れに

なる！どけよ！

元親、刑事達を押しつける。

正面玄関のインターホンを押す。

信者の声「どちら様でしょうか」

刑事1「刑事達が後ろから元親を抑える。

元親「なあ、教祖に伝えてくれ！今すぐ自

首しろよ！じゃねえと殺されちまうぞ！」

○同・10階・廊下（夜）

綱吉、窓から外の喧騒を眺める。

綱吉「何の騒ぎ？」

山下「頭のおかしい奴が入り込んで騒いでい

るようです。警察が連れて行くでしょう」

綱吉「ねえ、本当にここは爆発しないよね」

山下「勿論です。教団内の警護も倍にして巡

回させています。何もご心配はいりません」

笹川「まだ起きていたのか、綱吉」

綱吉「綱吉、笹川に駆け寄る。

笹川「おじいちゃん、お母様の事、警察には」

笹川「ちやんとお願いしてきたよ、何も心配

いらなからもうお休み」

綱吉「笹川、綱吉を促して廊下を歩く。

綱吉「あの裏切り者は？」

笹川「笹川、山下をちらりと見る。

山下「宿坊の一角に置いております」

笹川「ほとぼりが冷めるまでそのままにして

おけ。IDカードも回収しておきなさい」

山下「かしこまりました。自宅に置いてある

と言つて行きましたので、明日にでも他の者

に取りに行かせます」

笹川「うむ」

○同・1階・宿坊・遠藤の室内（夜）

遠藤、膝を抱き震える。

遠藤「頼む、殺さないでくれ、頼む」

両手にIDカードを握りしめている。

○山林・駐車中のバン・車内（夜）

蛭一、車の後部座席に乗り込む。
座席は取り外され床にノートパソコンが置かれている。
開くと天禅会本部正面で刑事達と揉めている元親の姿が映る。
画像を切り替える。
遠藤テル子（87）の写真や入所施設名が表示される。
蛭一、後ろ手をついて背をのばす。
背後に立ってかけてある額縁にぶつかる。
蛭一「おっと」
蛭一、倒れてきた額縁を立て直す。
にやりと笑う。
額縁を支える蛭一の小指に玩具の指輪が嵌められている。指輪の石の色は黄色。鈍く光る。

○県警・ロビー（夜）

元親、ベンチで項垂れる。
福井、元親の隣に座る。
福井「巻き込んだじまった俺が言うのもなんだけどさ、あんまり思いつめるなよ」
元親「（首を振り）……違う。本当はもつと早くこうしなくちやいけなかったんだ」
福井「こうって？」
元親、福井、元親の顔を覗き込む。
元親「確かめなくちやいけなかったんだ。もつと早く、親父が言った言葉の意味を確かめなくちやいけなかった」
元親、両手で顔を覆う。
元親「ただ怖くてできなかった！もし本当に人を殺してたらどうしようって。そして、俺の人生も駄目になるんじゃないかかって、そればっか考えて、ずっとずっと……」
元親「親父のせいで人生を駄目にされた奴がいるのに、俺はずっと自分のことばっか考えて、知らねえ振りしてたんだ！」
福井「元親……」

元親「だから謝らなさいけない。許しても
が償わねえとー」
福井「（遮って）親がしたことを子供が謝る
の？ 親の責任を子供が取るの？ そんな
のおかしいだろ」
元親「福井に詰め寄る。」
福井「でも親父がやったことは！」
元親「許されることじゃないよ。でもそれは
子供の前には関係のないことだ」
福井「元親を真っ直ぐに見つめる。」
元親「でも！ その金で俺は腹一杯飯食って
生きてきたかもしれないだ！ その金で
大学まで行って、好きなもん買って貰って、
人を殺した金で、俺は生きてきたかもしれ
ないんだ！」
元親「両手で顔を覆って項垂れる。」
福井「元親の頭を撫でる。苦悶の表情。」
西田「光己さん」
西田「遠慮がちに声を掛ける。」
福井「ああ、ごめんね灯太。お迎えありがと」
西田「大丈夫ですよ。帰りましょう元親さん」
刑事1「福井さん！」
福井「刑事達、慌ただしくロビーへ出てくる。」
刑事1「それが、SNSに死体の山が投稿さ
れていると通報が」
福井「顔を顰める。」
刑事1「見たかどうか、これ」
掘り起こされた死体の山の写真。
画面をスライドする。
2枚目は地図の画像。
刑事1「ここ、天禅会本部近くの山林です。
それから3枚目の画像なんですー」

刑事1、3枚目にスライドする。
「天祥会犠牲者墓誌」と書かれ、複
数の人名が連なっている。

福井「天祥会犠牲者墓誌、柘山ふさ子、浅野
太一……」

福井「驚愕する。」

福井「倉橋聖良……」

元親「西田、驚く。」

刑事1「投稿を見た一般人が現場に向かって
いるみたいなんです」

刑事1「コメント欄をタップする。」

コメント欄に「地元だ。ちよつと行っ
てくる」「肝試しだ」「マジであった
らどうしよう」と表示。

コメントは続々と増えている。

福井「刑事達に指示をする。」

福井「緊急配備だ！ 全員現場に向かえ！」

福井「刑事達、慌ただしく出ていく。」

福井「元親と灯太はここにいろ！」

福井「振り返り元親と西田に言う。
パトカーがサイレンを鳴らし出ていく。

元親「西田、呆然と見送る。」

元親「……灯太、悪い、先に帰ってくれ」

西田「元親さん！」

元親「今更帰れるかよ」

西田「そんなの俺だってそうですよ。歩いて
いきたくないなら止めませんけどね」

西田「原チャの鍵を翳して見せる。」

元親「目を瞠った後、苦笑する。」

○天祥会本部・駐車場・外（夜）

警官達、車両に走り寄っていく。

パトカー1台を残し、他の車両が走り
り去る。

警官1、駐車場を見回り始める。

蛭一、警官1の背後に近づく。

○同・裏口・内側（夜）

遠藤、小走りで扉に近づく。IDカー
ドをパネルに当て開錠。扉を開けて辺

りを見渡す。

蛭一、焼却炉前に立つ。

遠藤 「（声を潜めて）おい」

蛭一、遠藤気付く。大きな額縁を小脇に抱えて中に入る。

蛭一 「笹川真善は？」

遠藤 「もう寝室に入った」

蛭一 「あっそ」

蛭一、持っていた額縁を床に置く。

遠藤、IDカードを蛭一に手渡す。

蛭一、IDカードを首から下げる。

遠藤 「（緊張しながら）俺の母親は無事か」

蛭一 「約束したじやん？ 上手にお迎えできたら殺さないでいてやるってさあ」

○（回想）居酒屋・店内（夜）

蛭一、遠藤の背中を踏む。

蛭一 「これから言う事をちゃんとできるなら殺さないでやるよ。……お前の母親」

○現在・天禅会本部・裏口・内側（夜）

遠藤、安堵する。

遠藤 「……よかった」

蛭一、遠藤の口を押えて腹を刺す。

蛭一 「人の話はちゃんと覚えておくべきだよ。俺は母親は殺さないと言ったけど」

蛭一、刺しているナイフで腹を抉る。

蛭一 「お前を殺さないとは言っていないだよ」

遠藤、崩れ落ちる。蛭一に抑えられた

口から呻き声が漏れる。

蛭一 「しー、しー、しー」

遠藤、目を見開いたまま死ぬ。

ドアが風でゆっくりと閉まる。

○山林・山道脇・広場（夜）

広斗、辰巳、覆面から降りる。

辰巳 「警官達と一般人が押し合いをしている。

福井 「呑気に言っていないでさあ、手伝ってよ」

福井「爆発した場所、死体遺棄された寺、犯人の潜伏場所、脅迫された宗教団体、大量の死体遺棄現場。もうどれだけ人手があつたつて足りねえって！」

福井「天を仰ぐ。」

広斗「ガセじやなかったのか」

福井「もうゴロゴロだよ」

福井「広斗と辰巳を引率する。」

現場は複数の土が掘り起こされ、白骨化した手が天へ伸びている。

広斗「舌打ちしながら掘り起こして片手

だけ持ち上げてやがる。まるでゾンビだな」

福井「芸術的センスあるよね」

辰巳「これがあの殺人犯の仕業なら近くに夕

イヤ痕や足跡が——」

福井「残つてると思う？」

福井「広斗、辰巳、振り返る。」

山道は渋滞し、一般人達が現場にスマ

ホを向けて撮影中。

広斗「苦笑）頭のいい奴だ」

福井「ムカつくくらいにね」

○天祥会本部・12階・笹川の寝室（夜）

笹川「目を覚まし体を起こす。ベットサイドの灯を点ける。

入口に人影。

笹川「誰だ」

蛭一「名乗った所でアンタはわからないよ」

蛭一「額縁を脇に抱え笹川に近寄る。」

笹川の顔へDカードの束を投げる。

笹川「カードに付いた血に驚く。」

笹川「誰か！」

蛭一「この部屋防音なんですよ？ 無駄じゃない？ まあ外に聞こえてたとしても——」

○同・1階・廊下（夜）

山下「喉を切られ絶命。」

○同・駐車場・外（夜）

警官1、喉を切られ絶命。

○同・駐車場・パトカー内（夜）
警官2、運転席で喉を切られ絶命。

○同・12階・笹川の寝室（夜）
蛭一、「誰もこないけどね」

笹川、「後退る。」

笹川、「（怯えながら）君が一連の犯人だな。」

蛭一、「天罰、天罰、天の罰。そうだね、下る

ね。俺にも、アンタにも」

笹川、「（怪訝に）僕は何も——」

蛭一、「集会場、孫の執務室。額縁」

笹川、「息を呑む。」

蛭一、「聞いたよ？ 大事な大事な一人娘から」

笹川、「咳き込む。」

蛭一、「ああ、ごめんね？ この額縁、角が本
当に邪魔だよねえ。俺も丸いやつの方がい
いなって思ったんだけど急な事だったから
四角いのしか見つかんなくてさ。でも上手
く飾れたと思わない？」

笹川、「怪訝な顔をして額縁を見る。」

額縁の中に聖良の顔の皮が入っている。

笹川、「聖良……！」

蛭一、「（笑って）あつは。やっぱ父親だね。」

わかるんだ自分の娘の皮は」

笹川、「お前、僕の娘を！」

蛭一、「全身は流石に無理だったよお。面倒臭

くなっちゃって。だから返してあげる。飾

ってあげなよ。それがアンタの趣味だろ」

蛭一、「ああ、間違えた。それを見て興奮すん

のが」

蛭一、「アンタとアンタの孫の銃を笹川に向ける。」

○山林・道路（夜）

西田、元親を後ろに乗せ原チャを運転。
山道は渋滞している。

元親「すげえ人だな」
西田「パトカーもすごい集まっていますね」
山道脇でマスコミやユーチューバーが
中継している。
元親、スマホを見る。

○（回想）20年前・天禅会本部・一階・集
会場

柘山ふさ子、信者達に囲まれ、震えな
がら遺書を書いている。
遠藤の声「女房の方は遺産を教団に寄付する
って遺書を書かされて殺された。自殺に見
せかけて……」
信者、背後からふさ子に近付き、首に
ロープをかける。

○現在・山林・道路（夜）

元親「元親、スマホに映る墓誌を見つめる。
元親「柘山って前に遠藤が言ってた奴だよな」
西田「そうでしたっけ」
元親「自殺に見せかけて殺されたって。天禅
会がここに埋めたってことか？」
西田「まさか、自殺にみせかけたなら埋葬さ
れてるはずじゃないですか。適当に名前書
いてるだけなんじゃないんですか？」
元親「だとしたら旦那の名前も書いてあるは
ずだろ。それに墓誌つつたら墓に入ってる
骨の名簿みてえなものじゃねえか」
西田「でもそれが正しかったら、倉橋聖良の
死体もここにあってことですよ」

○山林・道路脇・広場（夜）

西田「西田、元親、現場に着く。
西田「あ、光己さんいましたよ、光己さん！」
西田「福井を見つけたよ、福井さん！」
福井「福井を見て元親と西田に近づく。
元親、福井の背後から天禅会本部が見

えることに気付く。
福井「署にいろつて言っただろうが」
西田「（とぼけながら）へ？現場に向かえつ
て言いましたよ」

福井「あ、ぎよつとする。
福井「あれ、そうだったけ？なあ元親。俺お
前達に――」

福井「焦って元親に聞く。
元親「（視線を動かさず）……先輩。天禅会
って、大丈夫なんすかね」

福井「え」

福井、西田、元親と同じ方向を見る。
天禅会本部駐車場が小さく見える。

パトカーが一台停まっている。

元親「見張り、いなくないですか？」

福井「いや、一台は残しておいた。おい、連
絡取れるよな」

福井、振り返り刑事1に指示を出す。
刑事1、覆面から無線で呼びかける。

○天禅会本部・駐車場・パトカー内（夜）
警官2の死体の傍で鳴り響く無線。

○山林・道路脇・広場（夜）
刑事1、無線で呼びかける。

福井「（鋭く）続ける」

広斗、辰巳、近寄る

広斗「どうした」

福井「残してきた見張りとは連絡がつかない」

元親「灯太、いくぞ」

元親「西田の腕を掴み走り出す。

福井「こら、待てお前達！」

元親、西田、振り返らず立ち去る。

福井「（困惑して）ああ、くそ」

広斗「行くぞ」

辰巳「はい」

広斗、辰巳、二人の後を追う。

福井「いや、ちょっと待ってっ！」

福井、刑事1へ後を頼む。

○天祥会本部・12階・笹川の寝室（夜）

蛭一、カーテンを開ける。

山道の渋滞が車のライトでわかる。

笹川、驚愕する。

笹川「あそこは——」

蛭一「ゴミ捨て場、だろ。お前達の。ちゃん

とお前のゴミ娘も捨ててきてやったよ？

お前らが今まで埋めてきた奴らの中にね」

笹川、両手で顔を覆う。

笹川「何故だ、何故ここまで酷いことをする」

蛭一、薄ら笑いを止め真顔で振り返る。

蛭一「何寝ぼけたこと言ってるの？」

蛭一、笹川の太腿を銃で撃つ。

笹川、悲鳴を上げる。

蛭一「もう16年も前から、それは俺の台詞

なんだよ」

蛭一、懐からジツポの缶を取り出す。

笹川に近付き、油をかける。

笹川、驚いて逃げようとする。

蛭一、笹川の襟を掴み、銃で殴る。

ジツポを取り出し、火を灯す。

笹川「待て、やめろ！ やめろ！」

蛭一、ジツポの炎を見つめる。

○（回想）14年前・アパート・室内（朝）

主婦1の通路で雑談する主婦達の声が響く。

に。宗教だけじゃなく不倫にも夢中——」

床に血まみれの剃刀が落ちている。

啓二（16）、虚ろな状態で座る。手

首にはリストカットの傷跡。

蛭一（19）、啓二の手当てをする。

啓二「俺が殺したんだ、俺が、俺が」

蛭一「お前が殺したんじゃない。落ち着けよ。

大丈夫だから、な、啓二——」

啓二「泣き叫んで、大丈夫じゃない！ 何

も大丈夫じゃない！ 大丈夫じゃない！」

啓二、暴れる。

蛭一、啓二を必死に抱きしめる。

× ×

啓二、布団で寝ている。

蛭一、溜息を吐き仕事に出かける。

○（回想）14年前・工事中の道路（昼）

雪が降っている。

蛭一、交通整備をしている。

○（回想）14年前・帰宅途中の道路（夕）

蛭一、歩いているとLINEがくる。

見ると「大丈夫か」というメッセージ。

蛭一、一瞬顔を歪める。

「大丈夫」というスタンプを送信する。

○（回想）14年前・アパート・玄関前・外（昼）

元忠（40）、玄関に茶封筒を置いて

扉の前から立ち去る。

元忠、蛭一、階段で擦れ違う。

元忠、俯いたまま。

蛭一、気付かず部屋の前に到着。

封筒に気付き手に取る。中に100万

円とジツポ、「すみませんでした」と

書かれたノートの切れ端。

蛭一、ジツポを手に取る。

○（回想）16年前・井ノ浦家・居間の窓・外（夜）

蛭一（17）、居間の窓に駆け寄る。

押し入れに背を預けて泣き叫ぶ啓二

（14）。

さやか（39）、柱に縛られ燃えてい

る。

○（回想）14年前・アパート・玄関前・外（昼）

蛭一、震えながら膝をつく。

蛭一、震えながら膝をつく。

人の人生を奪えるのか。好きな時に甚振っ

て、好きな時に奪って、好きな時に謝って」

蛭一、その場に蹲る。声を殺して泣く。

× × ×

インサート。

雪が降っている暗い空。

× × ×

蛭一、大丈夫、大丈夫、大丈夫。頑張れる、俺は頑張れる。お兄ちゃんだから、大丈夫」

○ 14年前・同・室内（夕方）

蛭一「ただいま」

蛭一、室内を見渡すが啓二の姿がない。家中を探し回る。布団の隅に置かれて

いる新聞に気付く。

東尋坊の自殺防止運動の記事。

記事の周りに血が付いた無数の指の跡。

蛭一、顔色を変え部屋を飛び出す。

○ 現在・天祥会本部・12階・笹川の寝室（夜）

蛭一、ジッポの炎を見つめる。

蛭一「普通に生きたかっただけだ。贅沢した

かったわけじゃない。金が無くても良かった。た。生きていてさえくれればよかったんだ。

俺の、弟が」

笹川、ベットの上で怯える。

蛭一「なんでそんな当たり前のことすらでき

なかつたんだろ？　なんで周りの人間

が簡単にできてるの？　俺達にはできな

かつたんだろ？」

蛭一、笹川に近づく。

蛭一「なあ、どうしてだと思おう？」

蛭一「笹川の顔を覗き込む。」

○ 同・駐車場（夜）

元親、灯太、原チャで現場に着く。

福井、広斗、辰巳、覆面で現場に着く。

広斗、パトカーに近づく。

絶命している警官2の遺体を発見。

空のホルスターを一瞥する。

元親、建物を見上げる。笹川がバルコ

ニーに立っていることに気付き指さす。

元親「あれ！」

○同・12階・笹川の寝室・バルコニー（夜）

笹川、地上に助けを求め。

蛭一、笹川の背にジツポを投げつける。

笹川、一気に燃え上がる。

蛭一「地獄で会おう」

蛭一、笹川をバルコニーから蹴落とす。

○同・駐車場（夜）

元親、目の前に笹川が落下する。

笹川、死亡。

福井、蛭一に向けて発砲する。

蛭一、室内に入っていく。

広斗「救急車！」

広斗、辰巳に指示してエントランスへ

走り出す。

扉は施錠されている。

インターホンを押すが応答なし。

○同・1階・玄関横警備室（夜）

警備員、首を切られ絶命。

○同・駐車場（夜）

福井「裏へ回ろう！」

福井、走り出す。

広斗、元親、追う。

○同・12階・廊下（夜）

蛭一、懐から取り出したフロアマップ

を見る。

スマホを操作しながら歩き出す。

○同・1階・裏口・外（夜）

元親、焼却炉近くにドアを見つける。

元親「あれ、裏口じゃないっすか」

福井、駆け寄る。

福井「閉まってんのかよ！」

○同・1階・裏口・内側（夜）

遠藤、ドアに寄りかかり絶命。

○同・裏口・外（夜）

福井、八つ当たりでドアを叩く。

福井「おい、駄目だ、正面戻るぞ」
福井、元親、広斗、走り出す。

○同・1階・エントランス（夜）

福井、扉前にいる辰巳に命令する。

福井「久木、そのガラス撃て！」

辰巳、発砲し扉のガラスを砕く。

福井、広斗、元親、西田、中に入る。

広斗「久木、お前はここで応援を待て」

福井、広斗、元親、西田、エレベータ

ーに乗り込む。

福井「くそ！ Dカードがない！」

辰巳、警備員の死体を抱き起す。

辰巳「カード、持ってません！」

西田「こつちに階段あります！」

西田、エレベーター横の階段を指す。

福井、広斗、元親、階段を駆け上る。

○同・3階と2階の踊り場・階段（夜）

西田、元親の後を走るが、足を止める。

隅に置かれた植木鉢を見る。銃が隠されて

○同・10階・綱吉の執務室（夜）

綱吉、唯の動画を見て自慰に耽る。

蛭一「こんな時ですらソレかよ」

綱吉、驚く。

蛭一、扉の前に立っている。

綱吉、ズボンを上げ慌てて立ち上がる。

綱吉「誰だ君は！」

蛭一「黙れ変態」

蛭一、綱吉の机に向けに発砲。

蛭一「後はお前だけなんだよ」

綱吉「誰か！助けて！誰か！」

蛭一「お前が皮を剥いたその子も、そうやって言つてたよな」

蛭一、綱吉に近づく。

蛭一「これはお前の母親にも言つたんだけど」

蛭一、机の上から綱吉を覗き込む。

蛭一「そう言つてた人達を、お前達はどれだけ殺してきたんだろうね？」

蛭一、綱吉の襟首を掴んで机の前に引き摺り出す。

綱吉、床に転がる。震えながら蹲る。

蛭一、銃口を綱吉に向ける。

警察のサイレンが響き出す。

蛭一、眉を顰める。

蛭一「舌打ちして」時間切れか……」

蛭一、銃を下ろす。

綱吉、蹲りながら蛭一を見る。

蛭一、机に浅く腰掛ける。机の背後に

掛けられたカーテンを振り返る。

蛭一「（カーテンに向かつて）結局ここまで

……悩んだよ。できればこのまま俺が、つてね。

……でも約束だしな」

綱吉、転がるように逃げ出す。

蛭一、振り向き、ただ見送る。

蛭一「……最後にいいもんは残せた、かな」

蛭一、銃を頭上に翳す。

蛭一「ねえ」

蛭一、カーテンに近付き、掴む。

蛭一「……もう少しだけ、待ってやってくれ」

カーテンを引き千切る音が響く。

○同・8階・階段（夜）

福井、広斗、元親、階段を駆け上る。

綱吉、駆け下りてくる。

福井「倉橋綱吉！」

広斗「犯人はどうした！」

綱吉「ぼ、僕の部屋に！銃を持ってる！」

福井「何階だ！」
綱吉「じゅ、10階」

福井「元親！ 綱吉の腕を掴み元親に押しやる。
頼む！」

元親「先輩！」
福井、広斗、10階まで駆け上る。

○同・10階・廊下（夜）

福井、広斗、廊下に出た瞬間右から発
砲を受けて後退する。

福井、広斗、ホルスターから銃を抜く。
再度廊下を覗き込む。

蛭一、エレベーターに走り出す。乗り
込むと首に下げているIDカードをパ

ネルに翳す。13階を押し出す。
福井、ドアが閉まる瞬間に発砲。

蛭一、腹を撃たれ後ろに倒れる。
福井、広斗、駆け寄る。間に合わずド

アは閉まる。
エレベーターは13階まで上がる。

広斗「13階だ、行くぞ」
福井、続く。

○同・10階と9階の踊り場・階段（夜）

元親、綱吉、様子を窺っている。
福井、元親に向かって叫ぶ。

福井「応援が来るまでそこにいろ！」
広斗、福井、階段を駆け上る。

○（回想）14年前・東尋坊・外（夕方）

蛭一（19）、啓二（16）を抱きし
めて座り込んでいる。

啓二「死にたいんだ、死にたい。殺してやり
たい。なんでできなかった」

啓二、泣きじゃくり暴れる。
蛭一、尚も啓二を抱きしめ続ける。

啓二「もう死なせてくれよ！」
蛭一「じゃあ！ 殺してから死の

う！ どうせ死ぬなら殺してから死のう！

イトに逃げて、肝心な時に傍にいてやれな
かった。同じ目に遭ってやれなかった」
蛭一、咳き込み、血を吐く。
西田、手を伸ばす。
蛭一、片手で制する。
蛭一「（荒く呼吸しながら）だから泣かなく
ていい。兄ちゃんのことには、忘れていい」
西田、俯いて首を振る。
蛭一「俺だけじゃない、母さんのことも、唯
ちやんのことも、お前が苦しいなら全部忘
れたっていいんだ」
西田、俯いたまま唇を噛みしめる。血
に濡れた蛭一の人差し指をそつと握る。
蛭一、微笑みながら西田を見つめる。
蛭一「大丈夫だから。啓二が生きたいように
生きて、大丈夫だから。続けてもいいし、
やめてもいい、忘れてもいいし、幸せにな
ったっていいんだ」
西田、俯いたまま、再び首を振る。
蛭一、ゆっくりと俯いて苦笑する。
蛭一「俺に似て頑固だなあ、お前も」
蛭一、握られている指を引き抜いて持
っている。Dカードを西田に渡す。
蛭一「銃は、拾ったな？」
西田、頷く。
蛭一「なら行け。：：唯ちゃんが、待ってる」
西田「（泣きながら）：：兄ちゃん」
蛭一「行け、啓二。約束したんだろ、迎えに
行くって、彼女に」
西田、沈黙する。
蛭一「その為に、生きてきただろう」
西田、立ち上がる。
西田「兄ちゃん、ごめん、なさい」
西田、幼子のように謝る。
蛭一、優しく西田を見つめる。
蛭一「ばか、泣くな。：：行ってこい」
西田、頷いてエレベーターへ乗り込む。
蛭一、微笑みながら啓二を見送る。
エレベーターが閉まる。
蛭一「：：：ごめんな。最後まで一緒にいれな

く
て」

蛭一、自身の小指を見る。玩具の指輪が嵌っている。石が鈍く光る。

○（回想）公安の車・車内（夜）

広斗、蛭一の手首を掴む。

広斗「（鼻で笑って）お揃いかよ」

蛭一「お前が買ってくれないから俺が買ってやったんじゃない。感謝しろよ」

広斗、驚く。

○現在・天禅会本部・6階・廊下（夜）

蛭一、小指がぴくりと動く。

階段から複数の足音が響く。

蛭一、ゆっくりと銃を持ち上げる。

こめかみに発砲。自殺。

○同・エレベーター・中（夜）

銃声が聞こえる。

西田、大きく体を震わせる。蹲り、袖を齧って嗚咽を堪える。壁に頬を擦りつけて泣く。

西田「ごめん、ごめん、ごめんなさい、ごめんなさい。にいちやん、ごめんなさい」

○同・10階と9階の踊り場・階段（夜）

福井、広斗、階段を駆け下りる。

元親「先輩！」

元親、福井を呼ぶが福井は返事をせず通り過ぎてしまう。

銃声が階下より響く。

元親、綱吉、驚く。

元親「（困惑しながら）今度は下からかよ」
綱吉、我慢できず悲鳴を上げて逃げる。

○同・10階・綱吉の執務室（夜）

綱吉、部屋に逃げ込む。

元親、追いかける。

元親「おい待って！ あそこにいろって言われてんだぞ！ 危ねえって」

元親「おい！」
綱吉、執務機の影に隠れる。

元親、綱吉を捕まえるため歩み出す。
機の背面にあるカーテンが破られてい
る。額縁に入れられた唯の全身の皮が
飾られていた。

元親、驚愕する。

綱吉「ち、ちが、これは」
綱吉、額縁が晒されていることに気付
き、慌てて立ち上がる。

○スナッフフィルム・天禅会本部・地下室
唯、複数の男達に抑えられ、皮を剥が
れている。

○現在・天禅会本部・10階・綱吉の執務室
(夜)

元親「高柳、唯……？」
元親、呆然と額縁を見上げる。

背後のドアが開く。

元親、振り返る。

啓二、ドアの前に立つ。

元親「灯太、どこ行ってたんだよお前！」

元親「怪我ねえか。大丈夫か」

西田「(俯いたまま)はい、大丈夫です」

元親「そっか」

元親、安堵してもう一度額縁を見る。

元親「つか見ろよこれ。これってあの高柳唯
って子じゃー」

西田、元親の脇腹を刺す。

元親、驚いて腹を見る、次いで西田を

見る。脇腹にはナイフが刺さったまま。

元親「え」

元親、呆然と膝をつく。

西田「……：：：：：：：：：：：：：：：唯ですよ」

西田、綱吉に銃口を向ける。

元親、傷を抑える。

元親「灯太……：：：：：：：：：：：：：：：お前それ」

西田「兄ちゃん、隠しておいてくれたんで

す。丁度2つ手に入ったって」

○（回想）同・駐車場・外（夜）
警官1、喉を切られ絶命。

○（回想）同・駐車場・パトカー内（夜）
警官2、運転席で喉を切られ絶命。

○現在・天禅会本部・10階・綱吉の執務室
（夜）

元親、愕然と西田を見つめる。

元親「兄ちゃんって、お前」

西田「光己さんが言ってたじゃないですか。

焼身自殺した井ノ浦さやかには17歳と1

4歳の息子がいたって」

西田「西田、元親の横にしゃがみ、囁く。

西田「俺が、その14歳だった息子ですよ」

○同・6階・廊下（夜）

蛍一、頭から血を流し絶命。

福井、蛍一の前に立ち、天を仰ぐ。

福井「（溜息混じりに）自殺、か」

階段から足音が聞こえる。

福井「こつちだ！」

福井、応援の警官達を呼ぶ。

広斗、蛍一の前に屈み、小指にそつと

触れる。

辰巳「福井さん、一ノ瀬さん」

辰巳、肩で息をして近付く。

福井「被疑者死亡。各階搜索して生存者探せ」

辰巳「……はい」

辰巳、一瞬広斗を見て僅かに唇を噛む。

福井、気付かず広斗に声を掛ける。

福井「俺達も行くぞ」

福井、エレベーターのランプが目

まる。10階が点灯している。

福井「……あ？」

○（回想）同・10階・廊下（夜）

蛍一、エレベーターに走り出す。乗り

込むと首に下げているＩＤカードをパ
ネルに翳す。１３階を押す。

○現在・同・６階・廊下（夜）

福井、蛍一の服を掴んで何かを探す。

広斗「おい」

広斗、福井の腕を掴み止めようとする。

福井「こいつ、ＩＤカードどうした！ さつき

まで、首に――」

福井、愕然としてエレベーターを見る。

福井「……単独犯、だよな？」

○同・１０階・綱吉の執務室（夜）

元親、床に蹲り傷を抑える。

元親「親父が、言ってた。……子供達が泣い

てたって、それが、お前らだったのか」

西田、元親を無表情に見下ろす。

元親「俺のことも、殺すのか？」

元親、啓二の足に手を伸ばす。

元親「灯太……」

西田、無言で歩き出す。

元親、西田の足を掴み損ねる。

西田「俺は、唯を迎えに来ただけです」

西田、綱吉に銃口を向ける。

綱吉、机の影に蹲り悲鳴を上げる。

西田「唯を、そこから出せ」

西田、綱吉に命じる。

綱吉、本棚に立て掛けて置いた梯子を

持ってきて、上り始める。

西田「（呟くように）やっとな、約束が守れる」

西田、唯を悲しそうに見上げる。

元親、西田の後ろ姿を見つめる。

○同・１０階・廊下（夜）

福井、広斗、銃を構え廊下を見渡す。

福井「元親！どこだ！」

広斗、綱吉の部屋のノブを回すが鍵が

掛かっている。

福井「倉橋綱吉！そこにいるのか！」

福井、ドアを叩く。

広斗「おい！開ける！」

元親の声「先輩！」

室内から綱吉の悲鳴と銃声が聞こえる。

広斗「福井に向けて」どけ！」

アを蹴破り室内に踏み込む、そのままド

福井、広斗の後に続く。

元親、室内で蹲っている。

綱吉、眉間を撃たれ机上で絶命。

西田、机の影から唯の皮を抱きかかえ

て立ち上がる。

福井「灯、太？」

福井、銃を構えながら狼狽する。

西田、唯の皮を見つめながら囁く。

西田「唯に向けて」ごめん、遅く、なっ

（フラッシュバック）

唯の笑顔。

西田「唯に向けて」やっ

と、行けるね」

福井「よせ！」

元親「灯太！」

○（回想）16年前・井ノ浦家・玄関・中

（昼）

蛭一「た

啓二（14）、

蛭一に近付く。

啓二「兄ちゃん、お

蛭一「おう、すぐに行

蛭一「おう、すぐに行

啓二「今日もバイト行

蛭一「時給いいんだぜ

啓二「遠慮して」え、

蛭一「もうすぐコンピ

そしたら修学旅行の金

蛭一「微笑みながら啓

蛭一「もうすぐコンピ

そしたら修学旅行の金

蛭一「もうすぐコンピ

そしたら修学旅行の金

蛭一「もうすぐコンピ

そしたら修学旅行の金

蛭一「もうすぐコンピ

そしたら修学旅行の金

蛭一「もうすぐコンピ

啓二「本当に？　え、俺修学旅行行けるの？」
蛭一「何とかしてやるって言つただろ？　それより金早く隠せ、母さんに見つかったらまた取られるぞ」
啓二「うん！」
啓二「にっこり笑って頷く。」
蛭一「居間に上がり制服を私服に着替える。玄関でもう一度靴を履く。」
蛭一「遅くなるから、先寝てろよ」
啓二「（困ったように）うん、でも俺もこれから教会に行くんだ。母さんが集会の準備手伝えって」
蛭一「（顔を歪め）またか：：あんま深入りすんなよ。適当なところで逃げて来い」
啓二「大丈夫。最近仲いい子ができてさ。その子と一緒にいるから」
蛭一「振り向いて愕然とする。」
蛭一「：：女の子？」
啓二「ちよつと、何考えてんの兄ちゃん！」
蛭一「お前もそんな年になったのか。まじか」
啓二「やめてよ！　そんなんじゃないって！」
蛭一「あ、コンドーム持ってるからお前」
啓二「持ってない！　そんなの使わない！」
蛭一「いやいやいや、大事だぞお前、兄ちゃん」
啓二「靴に入ってるから」
蛭一「いらないうってば！　もう早くいけよ！」
啓二「笑いながら外へ出ていく。」

○（回想）16年前・井ノ浦家・玄関前道路・外（昼）
広斗（17）、道路で自転車に跨りながら待っている。
啓二「お待たせ！　行こうぜ」
啓二「広斗の自転車の後ろに座る。」
広斗「自転車を漕ぎだす。」
蛭一「啓二に大声で呼びかける。」
蛭一「靴だぞ！　箆筒じゃないからな！」

啓二「兄ちゃん！」

啓二、ドアから顔を出して怒る。

蛸一、笑いながら去る。

啓二「もう！」

啓二、ドアを閉めようとする。

唯（14）「あ、啓二！」

唯、道路から歩いてくる。

啓二「唯、あれ？　なんでここに？」

唯「今日、集会の手伝いでしょ？　一緒に来こうと思ってる」

○（回想）16年前・山道・外（昼）

唯「啓二、唯、並んで歩く。」

啓二「修学旅行、行けるようになったの？」

啓二「うん、兄ちゃんが次のバイトのお給料が入れば行けるぞって」

唯「よかった！　楽しみだね！」

啓二「うん。でも修学旅行終わったら今度は受験勉強しなくちゃいけないよね。俺、高校

校どうしよう」

唯、悲しそうに俯く。

啓二「唯？」

唯「私、たぶん受験できない」

啓二、驚いて足を止める。

唯「中学卒業したら、天祥会で秘書の仕事をしなさいって言われているの」

啓二「え、そんなの——」

唯「いやだよ、私。あんなところで働くななんて」

啓二「うん」

啓二、唯につられて俯く。

啓二「俺が、俺達がもっと大人だったら」

唯「うん……」

啓二、唯、そのまま俯いて沈黙。

唯「でも、でもね」

唯、ぱつと顔を上げる。

啓二「私、今考えてることがあるの！」

唯「この間言ったじゃない？　スパイかもしれない人がいるって」

啓二「最近入ったおじさんだよ」

唯「この間言ったじゃない？　スパイかもしれない人がいるって」

啓二「最近入ったおじさんだよ」

唯「この間言ったじゃない？　スパイかもしれない人がいるって」

啓二「最近入ったおじさんだよ」

唯「この間言ったじゃない？　スパイかもしれない人がいるって」

啓二「最近入ったおじさんだよ」

唯「この間言ったじゃない？　スパイかもしれない人がいるって」

啓二「最近入ったおじさんだよ」

唯「この間言ったじゃない？　スパイかもしれない人がいるって」

唯 「そう、教団のこと色々聞いてくるの。だから私、その人に教えてるの。ここがおかしいところだっ」
 唯 啓二、不安げに唯を見つめる。
 唯 「もしかしたら、それが世間に広まって、誰かが助けてくれるかもしれない」
 啓二 「でも危ないよ。もしばれたら何されるか……。殺された人もいるって噂聞いた」
 唯 「うん、知ってる。でも時間がないの。私、このまま一生ここで生きていくのは嫌」
 啓二 「だったら、俺と一緒に行こうよ！ 兄ちゃん高校卒業したら、俺を連れて家出るって言うてるんだ！」
 唯 「（驚いて）お兄ちゃんか？」
 啓二 「まだ誰にも言うなって言われてるけど、でも、俺兄ちゃんに聞いてみるよ！」
 唯 「……ありがとう、啓二」
 唯、微笑む。しかしすぐに顔を曇らせる。
 唯 「でも、でもね。（言い淀みながら）もし、私が捕まって閉じ込められたりしたら――」
 啓二 「したら助けに行くよ！」
 啓二 「俺が、絶対に迎えに行くよ！」
 唯 「（嬉しそうに）ありがとう啓二」
 啓二 「約束だよ」
 啓二、唯、手を繋いで微笑みあう。
 遠藤（38）、松浦（38）、唯の背後に現れる。
 唯 「きゃっ」
 遠藤、松浦、唯を強引に連れていく。
 啓二 「唯！」
 啓二、唯に手を伸ばす。
 宮本（38）、松井（38）、啓二を抑える。
 啓二 「何！ 離して！」
 さやか（39） 「啓二！」
 啓二 「母さん！」
 さやか、啓二に駆け寄る。

さやか「よくできたわね！ 啓二！」

啓二「母さん？」

さやか「最近仲良くしているみたいだから、

あんただつたら何か聞き出せるかもって思

つたのよ！ タイミングもばっちり！」

啓二「聞き出す……？ 何言ってるの母さん」

啓二「聞き出す……？」

さやか「あの子は悪魔よ！ 教祖様を陥れよ

うとしている悪魔！ だから！」

さやか「興奮して喜んでい

啓二「何言ってるの母さん！」

唯「啓二！ 啓二！」

啓二「唯！ 唯、助けを求めて叫ぶ。

啓二「唯！」

松井、啓二の側頭部を殴る。

啓二、昏倒する。

○（回想）16年前・天禅会本部・地下室

室内は蝋燭の灯のみ。

唯、複数の男達に抑えられ、皮を剥が

れている。

唯、悲鳴を上げている。

男の一人は手に痣がある。

笹川（62）、満足そうに見つめる。

綱吉（19）、ビデオカメラで撮影。

啓二、信者に抑えられている。泣き叫

び、制止する。

啓二「誰か！ 助けて！ 唯を！ 唯！」

信者達、微動だにせず見守る。

隼人（40）、信者達の最後尾に立ち、

血が出る程拳を握る。

唯の悲鳴が響く。

唯、畳の上で皮がない状態で絶命。

啓二、呆然と座り込む。

笹川、唯の遺体の前に立つ。

笹川「（恍惚と）これで彼女の悪は取り除か

れた。彼女は女神となったのだ」

信者達、歓声を上げる。

笹川、綱吉、唯の皮を持ち上げる。そのままだ下室を後にする。唯！

啓二「待て！唯を返せ！唯！」
啓二、追いかける。
山下（40）、蛍一の背後に回り込み
燭台で後頭部を殴り気絶させる。
隼人、静かに立ち去る。
松井、松浦、遠藤、宮本、目配せをして隼人を追いかける。

○（回想）16年前・井ノ浦家・寝室の押し入れ（夕）
啓二、押し入れに籠っている。
内側からつつかえ棒をしている。

○（回想）16年前・井ノ浦家・寝室（夕）

蛍一「啓二、押し入れをノックする。」

蛍一「啓二、おい」
蛍一、呼びかけるが返事はない。振り向いて居間にいるさやかに怒鳴る。

さやか「おい！啓二に何したんだよ！」

蛍一「ほっとけるかよ！飯も食わねえ水も飲まねえ！アンタ何したんだよ啓二に！」

さやか「……どうしたんだよ、その金」

さやか「お清め代よ。今回はとても良い行いをしたって頂いたの」

蛍一「何したんだ、あんた！」

さやか「（激昂して）うるさいわね！いちいち騒がないで！これを頂くためにどれだけあたしが苦労したと思ってるの！何も知らないくせに！」

さやか、蛍一に灰皿を投げる。
蛍一、目に灰が入り、後退る。

さやか、目の間の襖を閉める。
さやか「二度とそこから出てくるな！」

さやか「二度とそこから出てくるな！」
さやか、襖を蹴って叫ぶ。
蛍一「（舌打ちして）クソババア！」

蛭一、大きく溜息を吐き、押入の前に
しゃがみ込む。

蛭一「啓二、兄ちゃんバイト行くけど、なん
かあったら逃げて来い。いいな」

返事はない。

蛭一「（心配そうに）行ってくるな」

蛭一、窓から出ていく。

○（回想）16年前・井ノ浦家・寝室の押し
入れ（夕）

啓二、涙を流しながら目を閉じる。

○（回想）16年前・井ノ浦家・外（夕）

元忠（38）、軽トラの運転席に座る。
バックミラーで蛭一が去るのを見ている。
荷台には赤いポリタンクが積まれている。

○（回想）16年前・井ノ浦家・寝室の押し
入れ（夜）

蛭一、煙に咳き込み目が覚める。

襖の隙間から明かりが漏れている。

さやか、悲鳴を上げる。

啓二、つかえ棒を外して押し入れか
ら出る。

○（回想）16年前・井ノ浦家・居間（夜）

さやか、柱に縛り付けられ燃えている。

啓二、呆然とその場にへたり込む。

蛭一「あ、あ、あ、母さん……」

蛭一「啓二！」

蛭一、窓ガラスを割り、入ってくる。

啓二を支えて外に出る。

啓二「泣きながら中に戻ろうとする。

啓二「母さん、なんで、いやだあ」

蛭一「さがれ！ 啓二！ 下がれ！」

啓二「離して、離してよお！」

啓二、泣きながら燃える家を見つめる。

○現在・天祥会本部・10階・綱吉の執務室

(夜)

福井「(困惑して) 灯太、落ち着け、どうい
うことだ、ちゃんと説明してくれ」

福井「(必死に) 頼むから！」
西田「ぼんやりと福井を見上げる。」

福井「灯太！」
西田「疲れた顔で首を横に振る。」

元親「やめる、やめてくれ灯太」
元親「床に倒れたまま懇願する。」

○(回想) 同・6階・廊下(夜)

蛍「大丈夫だから。啓二が生きたいように
生きて、大丈夫だから。続けてもいいし、
やめてもいい、忘れてもいいし、幸せにな
ったっていいんだ」

○現在・同・10階・綱吉の執務室(夜)

西田「もういいんだ」

西田「銃口を咥える。
一発の銃声が響く。」

○(回想) 16年前・山道・外(昼)

唯「顔を曇らせる。」

唯「もし、私が捕まって閉じ込められたりし
たら——」

啓二「そしたら助けに行くよ！」

啓二「俺が、絶対に迎えに行くよ！」

唯「(嬉しそうに) ありがとう啓二」

啓二「約束だよ」
啓二「唯、手を繋いで微笑みあう。」

○現在・天禅会本部・駐車場・外(夜)

救急車とパトカーのサイレンが響く。
西田の遺体が運ばれていく。
元親、救急車で運ばれていく。

離れた所に公安の車が駐車している。
広斗、ドアに凭れ煙草を吸っている。
ぼんやりと地面を見つめている。

福井「さつき、井ノ浦蛭一が所持していたスマホを鑑識が持って行った」

広斗「だろうな」
福井「見覚えのない鑑識がね」

福井「おまえ、知ってたんじゃないか。灯太が井ノ浦さやかの子だった。知っていて、影から手を貸していたんじゃないか」

広斗「（疲れたように）ふざけたこと言ってる。福井、広斗を見つめる。」

福井「兄貴の方は？」
福井「お前の学歴、妙な点が幾つかあった。どこにもお前が在籍していた記録がない」

福井「（無感情で）何が言いたい」
福井「16年前一ノ瀬隼人は潜入捜査の隠れ蓑として家族がこの地に移住していた。居住地は井ノ浦兄弟が住んでいた町営住宅の近く。お前と井ノ浦蛭一は同じ学校に通っていた可能性が高い」

○（回想）16年前・井ノ浦家・玄関前道路・外（昼）
広斗（17）、道路で自転車に跨りながら待っている。
蛭一（17）「お待たせ！ 行こうぜ」
啓二、広斗の自転車の後ろに座る。
広斗、自転車を漕ぎだす。

○現在・天禅会本部・駐車場・外（夜）
広斗「：：高いだけで証拠にはならねえ」
福井「（堪え切れず叫ぶ）お前は！ 最初からこんなことになるってわかってたんじゃ

福井「（堪え切れず叫ぶ）お前は！ 最初からこんなことになるってわかってたんじゃ

ねえのか！ わかってて止めもしねえで黙
って見てたんじゃねえのか！ 親父さんの
仇を取れると思っただけ！

広斗「泣きそうな声で」んなもん何の価値があるんだよ！

福井「広斗の叫びに絶句する。」

広斗「息を荒げて歯を食いしぼる。堪えるように暫く俯く。」

広斗「福井の襟から乱暴に手を離すと、再び車に乗ろうとする。」

福井「16年前、皮、かえせ」

広斗「動きを止める。」

福井「福井、苦し気に顔を歪める。」

福井「あれは、16年前まであった未来を、

返せってことだったんじゃないのか」

広斗「綺麗事言ってるじゃねえよ」

広斗「返ってこねえことなんかあいつらが一番よくわかった」

○（回想）14年前・アパート・玄関前・外（昼）
蛍一、その場に蹲る。声を殺して泣く。

○現在・天祥会本部・駐車場・外（夜）

広斗「広斗、運転席に乗り込む。」

広斗「行けよ。令状取るなりなんなり好きにしる」

福井「唇を噛み俯く。立ち去る。」

辰巳「福井と入れ違いで近づく。」

広斗「車の窓を開ける。」

辰巳「辰巳、運転席の傍に立ち報告する。」

辰巳「公正平和の党事務所爆破の件ですが倉橋幸吉の死亡が確認できました。犯行は井ノ浦蛍一による事前の工作というところでマスコミに公表します。それから井ノ浦啓二が盗聴した遠藤の自供を元に捜査本部が設置されました。朝一で天祥会教祖笹川真善も被疑者死亡のまま令状がでます」

広斗「わかった」

辰巳「（神妙に）これでよかったですか」

辰巳「親父達が死守した裏帳簿と高柳唯の殺害を撮影したSDだけでは確かに証拠不十分でした。裏帳簿も時間が経ちすぎて使えない。天祥会絡みの行方不明者は相変わらず出ている。放っておいたら確かにもっと被害者が出ていたかもしれない」

辰巳「でも、あの兄弟が死ぬ必要って本当にあったんでしょか」

広斗「必要があつたかどうかじゃねえ、死にたかつたんだよ。あいつらは」

辰巳「……蛍さんも、ですか」

辰巳「貴方が、蛍さんを連れて逃げたなら、啓二君を施設やなんかに入れていたら、もしかしたら」

広斗「……唇を笑みの形に歪めて俯く。」

辰巳「……兄弟揃って頑固だからな」

辰巳「親父達が残したSD2つについても井ノ浦蛍のパソコンから既に動画サイトに配信済みです。こちらでも事前に公開時刻が予約されていたものとして公表いたします」

広斗「ああ」

辰巳「持っている茶封筒を広斗に渡す。」

辰巳「（堪えながら）こちら、遺品、です」

辰巳、去る。
広斗、車窓を閉める。

○（回想）公安の車・車内（夜）

広斗、後部座席から運転席へ移動する。シヤツが乱れている。水を飲む。蛍「（飲み終わり）後ろ座席から手を伸ばし、広斗が持つペットボトルを奪う。裸。

広斗「もうちょっと休ませろよ」

広斗「もうちょっと休ませろよ」

蛭一「年取った？」
広斗「お前のせいだな」
蛭一「笑って服を着始める。」
広斗「煙草に火を点けてバツクミラー越しに蛭一を見る。」
蛭一「今更だろ」
広斗「（覗うように）マジでやんのか」
蛭一「お前はいつつもそれだな」
広斗「そうだろ。途中弟が怖気ればお前が捕まるだけだ。最後の最後まで逃げ道残してやりてえんだろ、お前は」
蛭一「俺っていいお兄ちゃん？」
広斗「（我慢できず責める）お前な！」
蛭一「お前だつて潰してえんだろ。天禅会」
広斗「（苦笑しく）：：だからってテメエを死なせてえわけじゃねえよ」
蛭一「誰が死ぬって？」
広斗「とぼけんな。捕まるつもりなんかねえ癖に」
蛭一「ほんと、俺のこと大好きだよねお前」
蛭一「困った顔で微笑むと、広斗の額にガチャガチャの殻をコツンと当てる。」
広斗「なんだこれ」
蛭一「ガチャガチャで出てきた。やる」
広斗「お前、またか」
広斗「中を開ける。」
玩具の指輪が出てくる。指輪の石は透明。
蛭一「俺のはこっち」
蛭一「自身の小指を広斗の前に翳す。黄色い石がついた指輪。」
広斗「蛭一の手首を掴む。」
広斗「（鼻で笑つて）お揃いかよ」
蛭一「お前が買つてくれないから俺が買つてやったんじゃない。感謝しろよ」
広斗「驚く。」

広斗「（意外そうに）：：欲しかったのかよ」
蛭一「いやいらね。お前昔からセンスねえし」

広斗「（ムツとして）お前な」

蛭一「仕方なくお前にいい方をやるんだよ。見るよ、俺のなんて黄ばんじまって」

広斗「黄ばんでねえ。こういう石だろこれは」
蛭一「俺はダイヤがいいんだよね」

蛭一「広斗の襟を掴んで口づける。唇を離すとドアを開け車外に出る。」

蛭一「じゃあよろしく」
広斗「おい！」

広斗「（微笑みながらドアを閉め、去る。舌打ちして）受け取らねえくせに」

○現在・公安の車・車内（夜）

広斗、茶封筒を開ける。蛭一が付けていた指輪がチャック付きの透明な袋に入っている。

広斗、ポケットから自分の玩具の指輪、自分が買ったペアの指輪を取り出す。玩具の指輪2つと、ペアの指輪の片方を袋に入れて封をする。中で鈍く光る3つの指輪を少し眺め、ポケットにしまう。

残った指輪を自分の薬指に嵌める。
広斗「（堪えるように小声で）馬鹿が」

○バス停（朝）

T・一年後

女子高生2人、バス停の椅子に座ってスマホを見ている。動画が流れている。

ユ一「チューバー1の声」つまり、医者をしな

がら孤児院もしていたんですよ、柘山巧は。そして引き取った子供達に日常的に性的虐待を行っていた。勿論当時10歳の真善少

年も同じ」
ユ一「チューバー2の声」周りの人は助けてく

れなかつたの？」
ユ一「彼は地元の名士でし

たからね。歯向かおうとする人間はいなか
つたんじやないかな。そんな真善が唯一の
救いとしていたのが、柘山の妻、ふさ子。
ふさ子はよく泣いている真善少年を抱きし
めて慰めていた、という証言がある」
ユ―チュ―バ―2の声―「そこが女神信仰のき
つかけてわけ？」
ユ―チュ―バ―1の声―「おそらくは。元信者
の証言によるとその皮を集会場の肖像画の
中に―」
バスが到着する。
女子高生達、動画を止めて乗り込む。
元親、原チャでバスと擦れ違う。

○願浄寺・山門（朝）

山門の手前に原チャが置かれている。
福井、一瞥し山門を潜る。

○願浄寺・墓地（朝）

元親、墓の掃除中。電話が来て出る。
哲也の声―「いつまでやってんだ。店どうすん
だよ」

元親「（苦笑して）悪い、今行く」
元親、通話を切り墓を見上げる。表情
は明るい。

福井「こども食堂始めたんだって？」

元親「福井、背後から元親に歩み寄る。」

元親「先輩」

福井「店にいったら哲也くんが怒ってたよ。」

元親「開店に間に合わねえって」

元親「はは、今電話きました」

福井「福井、元親に歩み寄る。」

福井「立派な墓だな」

元親「墓に井ノ浦家、高柳家と刻まれている。

ようやく。町会とか市役所からは一緒に入
れるなとか慰霊碑にしろとか色々言われた
んすけどね」

福井「聞いてる。市役所の方から電話がかか
ってきたからな」

元親「（驚いて）え、なんて」

福井「寺に苦情言いに行ったら『今更しやしやり出るな！』って住職に怒鳴られたって」

元親「あの住職、昔兄貴の方とバイト仲間だったらしいですよ」

福井「それでか」

元親「……ガキの癖に、一人で全部背負って、大変なのなんて誰が見てもわかっていたのに、それでも助けてやらなかった。自分も、他の大人も。だから今更あいつらがしたことを何も言えないって」

福井「（墓を見上げたまま）……そっか」

福井「花束の包装を剥がす。」

福井「でも兄貴の方は入ってないんだろ？」

元親「はい、匿名で遺骨が引き取られちゃまって。……先輩誰かわかりますか」

福井「花を生ける手を一瞬止めて元親を見る。それから首を振る」

福井「（悲しそうに）……いや」

○広斗のマンション・リビング（朝）

棚の上に骨壺と花が置かれている。

窓が開かれカーテンが風で泳いでいる。

外から救急車のサイレンが響く。

骨壺の前に蛍一が買った玩具の指輪2

個とペアの指輪の片方が置かれている。

○願浄寺・墓地（朝）

元親、福井、線香を立て終わり、拝む。

元親「……目を開けて墓を見上げる。」

元親「……全部遅かったんですよ。きつと」

福井「全部遅かったんですよ。」

元親「あれから結構考えちゃって。どうしたら止められたのかなとか。なんで気付かなかったのかとか。あいつがバイトに来た時気付いて説得できてたら、とか」

福井「（悲し気に俯いて）うん」

元親「でも多分、意味なかっただろうな、つてのも、思うんすよ」

福井「……うん」
元親「16年前に、それよりもっと前に、誰かが何とかしなきゃいけないかった。もういんだって、子供が、そんなこと言う前に、何とかしなきゃいけないかった」
福井「……そうだな」
元親「だから、こんなもただの独り善がりだ。だってわかっているんですけどね。今更だつて。でもやっぱり、こうしたかったんです」
福井「……親父さんの償いで？」
元親「福井を見る。しばらく沈黙して、ゆっくり首を振る。」
元親「俺が、やらなきゃって、思ったんです。ただの自己満足だろうけど、忘れないために。周りにも、忘れられないように」
元親「ゆっくりと墓を仰ぎ見る。」
元親「誰も助けてくれなくて、どうしようもなく、どうやって死んでいったか、もう命が、あるんだって、忘れないように」
元親「堪え切れず泣く。」
福井「元親の背を優しく叩く。」
青空が広がっている。

○天祥会本部・駐車場（朝）

建物がシートで囲まれ解体工事中。

啓二（7）、「駐車場の隅にしゃがみこみ、新品のトミカで遊んでいる。」

蛍一（10）、「啓二」
啓二、振り向く。蛍一が立っている。

啓二「にいちゃん」

啓二、トミカを掲げて近寄る。

蛍一、啓二の頭を撫でて口の中にチョコを入れてやる。

啓二、美味しそうに微笑む。

唯（14）、「啓二」
啓二、振り向くと唯が立っている。

啓二（14）、「唯」
啓二、唯の元へ走り出し、両手を握り

微笑みあう。

広斗（17）、「おい」

蛭一、振り向くと自転車に跨っている
広斗がいる。

蛭一、微笑んで自転車の後ろに跨る。

蛭一「行こうぜ」

広斗「おう」

啓二「唯、行こう」

唯「うん」

4人、笑いながら駐車場を出ていく。

（終わり）